

平成 23 年 年 報

熊本県鉱工業生産・出荷・在庫指数

(平成 17 年 基 準)

熊本県企画振興部 交通政策・情報局

統計調査課

まえがき

本県では、県内の鉱工業生産・出荷・在庫の動向を把握し、経済観測の基礎資料とするため、毎月鉱工業指数を作成し、「熊本県鉱工業動向」として公表しておりますが、このたび、年間補正及び季節指数の改訂を行ったうえで、平成23年の1年間の動向をとりまとめました。

鉱工業指数は経済や景気の動向を見るうえでの重要な指標の一つであり、昨今、その動向がこれまで以上に注目されてきております。本書が県内の景況分析などの資料として広くご利用いただければ幸いに存じます。

なお、この指数の作成にあたり、毎月貴重な資料の提供などにご協力をいただきました事業所並びに関係機関に対し、厚くお礼申し上げますとともに、今後ともなお一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年10月

熊本県企画振興部長

錦織 功政

利用上の注意

- 1 前年比及び前年同期(月)比は原指数を、前期(月)比は季節調整済指数により算出している。
- 2 各年の指数値は「年平均」指数を、四半期の指数値は「四半期平均」指数を表している。
- 3 原則として「鉱工業生産指数」、「鉱工業生産者出荷指数」、「鉱工業生産者製品在庫指数」をそれぞれ「生産指数」、「出荷指数」、「在庫指数」と略記している。
- 4 グラフ、統計表に記入されたⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳのローマ数字は、それぞれ1～3月期、4～6月期、7～9月期、10～12月期を表している。
- 5 本文中及び統計表中の記号は次のとおり。
 - 「一」 皆無又は該当数値のないもの。
 - 「▲」 負数(マイナスを示す)のもの。
 - 「0」 単位未満のもの。
 - 「X」「※」 統計の秘密保護の立場から、特に内容を秘匿したもの。
- 6 数字の単位未満は四捨五入している。そのため、内訳の数値を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。
- 7 本報告書の指数は、平成23年1月分以降について、その数値の補正を行うとともに、平成23年確定数値の組み入れにより季節調整済指数の改訂を行っているので、平成24年4月分以前の月報で公表されている数値とは異なっている。
- 8 本書の内容についてのお問い合わせは、下記へご連絡ください。

〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18-1
熊本県企画振興部 交通政策・情報局
統計調査課 商工班
直通電話 096-333-2177
(内線 3611)
F A X 096-384-7544

目 次

I 熊本県鉱工業指数作成の概要	7
II 平成23年熊本県鉱工業指数の動向	
1 概況	17
(1)生産の動向	18
(2)出荷の動向	21
(3)在庫の動向	22
2 業種別の動向	24
3 特殊分類別の動向	41
III 統計表	
1 業種別生産指数	
(1)原指数	46
(2)前年比・前年同期比・前年同月比	48
(3)季節調整済指数	50
(4)前期比・前月比	52
2 業種別出荷指数	
(1)原指数	54
(2)前年比・前年同期比・前年同月比	56
(3)季節調整済指数	58
(4)前期比・前月比	60
3 業種別在庫指数	
(1)原指数	62
(2)前年比・前年同期比・前年同月比	64
(3)季節調整済指数	66
(4)前期比・前月比	68
4 特殊分類別生産指数	
(1)原指数	70
(2)前年比・前年同期比・前年同月比	71
(3)季節調整済指数	72
(4)前期比・前月比	73
5 特殊分類別出荷指数	
(1)原指数	74
(2)前年比・前年同期比・前年同月比	75
(3)季節調整済指数	76
(4)前期比・前月比	77
6 特殊分類別在庫指数	
(1)原指数	78
(2)前年比・前年同期比・前年同月比	79
(3)季節調整済指数	80
(4)前期比・前月比	81

I 熊本県鉱工業指数作成の概要

熊本県鉱工業指数作成の概要

1 基準時

平成17年を基準時とする。したがって、指数値は平成17年の月平均(在庫指数は月末平均)を100.0とした比率で示され、ウェイトは平成17年の産業構造による。

2 分類

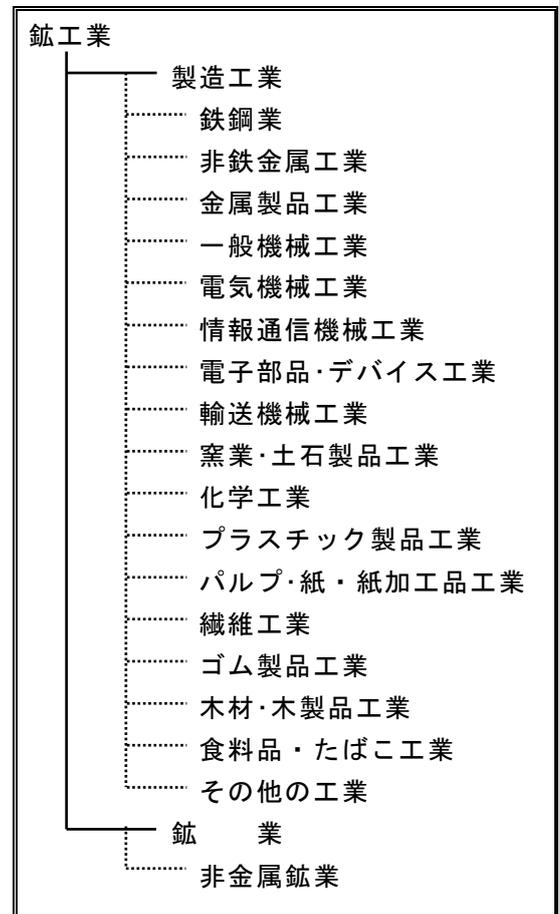
分類は、日本標準産業分類を基本とした業種分類と、品目の用途に着目し、財別に分類した特殊分類の2通りの方法によっている。

(1) 業種分類

業種分類については利用の便宜上、日本標準産業分類の中分類に若干の組替えを行っている。組替えを行った主な点は次のとおり。

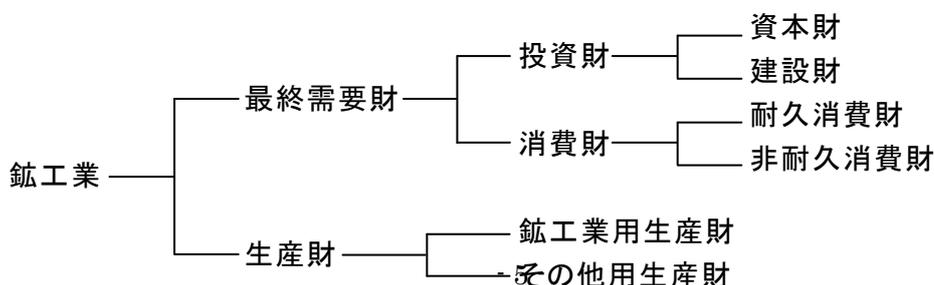
- ① 産業分類上の「繊維工業」、「衣服・その他の繊維製品製造業」、「化学工業」中の化学繊維製造業を統合して「繊維工業」とし、「化学工業」中の化学繊維製造工業を除く。
- ② 「なめし革・同製品・毛皮製造業」のうち、かばん製造業と袋物製造業については「衣服・その他の繊維製品製造業」に類似するため、両者のウェイト分だけ「衣服・その他の繊維製品製造業」を膨らました。
- ③ 産業分類上の「飲料・たばこ・飼料製造業」は「食料品・たばこ工業」に組み入れる。
- ④ 産業分類上の「家具・装備品製造業」は「家具工業」とし、「その他の工業」に組み入れる。
- ⑤ 産業分類上の「出版・印刷・同関連産業製造業」は「印刷業」とし、「その他の工業」に組み入れる。
- ⑥ 「精密機械器具製造業」、「石油製品・石炭製造業」は系列を採用できないため、業種分類を設けない。

業種分類の構成は右表のとおり。



(2) 特殊分類

特殊分類は、採用品目の経済的な用途によって分類したものであり、分類及び定義は次のとおり。



財別格付けの定義

分類	定義
最終需要財	鉱工業又は他の産業に原材料として投入されない最終製品。ただし、建設財を含み、企業消費財を除く。
投資財	資本財と建設財の合計。
資本財	主として家計以外で購入される財で耐用年数1年以上の財。
建設財	住宅・建築用と土木・建設用の合計。
消費財	主として家計で購入される財。
耐久消費財	耐用年数が1年以上で比較的購入単価が高い製品。
非耐久消費財	耐用年数が1年未満、又は比較的購入単価が安い製品。
生産財	鉱工業及び他の産業に原材料として投入される製品。ただし、輸出用の中間生産物、企業消費財を含み、建設財を除く。
鉱工業用生産財	鉱工業の生産工程に原材料、燃料、部品、容器、消耗品、工具等として再投入される製品。
その他用生産財	非鉱工業用の原材料、燃料、容器、消耗品及び企業消費財。

3 採用品目

採用品目は、原則として基準時における付加価値額の大きなものから業種ごとに代表性、重要性、系列の信頼性等を総合的に検討し選定した。生産指数及び出荷指数の採用品目数は142品目、在庫指数の採用品目数は93品目である。

4 ウェイト

ウェイトは、生産指数については付加価値額ウェイト、出荷指数は出荷額ウェイト、在庫指数は在庫額ウェイトである。

ウェイトは「平成17年工業統計調査」や「本邦鉱業のすう勢調査」のデータを用いて、県内鉱工業全体（総合）の付加価値額、出荷額、在庫額の中に占める業種別の枠を設定し、その枠の中に品目群を当てはめるかたちで、全体に対する各品目の構成比（ウェイト）を算出している。

5 指数の算式

算式は、個別系列を基準時のウェイトで総合する基準時固定加重算術平均法（ラスパイレス算式）で行っており、算式は次のとおり。

$$\text{個別指数} = \frac{\text{比較時数量}}{\text{基準時数量}} \times 100.0$$

$$\text{総合指数} = \frac{(\text{個別指数} \times \text{基準時ウェイト}) \text{の総和}}{\text{基準時ウェイトの総和}}$$

6 季節調整

季節調整とは、景気変動を知るために1年を周期とする規則的な変動要素（気象条件等の自然的要因、季節的慣習や決算期等の商習慣による社会要因）を取り除き調整することをいい、主に短期的な景気動向（前月比、前期比）の動きを見るために使用されている。

季節調整方法は、過去の系列から季節変動のパターンを抽出し、これを季節指数として原指数の

調整を行うのが一般的であり、本県では、センサス局法(生産・出荷指数はX-12-ARIMA、在庫指数はX-12-ARIMAの中のX-11デフォルト)によって季節指数を求め、原指数を季節指数で除して季節調整済指数を算出している。

7 資料出所

採用品目の月々の実績値は、主として経済産業省で実施している「経済産業省生産動態統計調査」(基幹統計)及び本県が実施している「熊本県生産動態統計調査」から求めている。一部品目の資料出所は次のとおり。

熊本県薬務衛生課(医薬品)、熊本県農産課(畳表)、熊本県健康危機管理課(プロイラー)、農林水産省大臣官房統計部発行『牛乳乳製品統計』(飲用牛乳)、『木材統計』(一般製材)及び『畜産物流通統計』(枝肉)、熊本県生コンクリート工業組合(生コンクリート)、熊本県瓦工業組合(セメント瓦)、熊本県みそ醤油工業協同組合(みそ・しょう油)、熊本県果実農業協同組合連合会(清涼飲料)

8 業種分類及び採用品目ウェイト

業 種 及 び 品 目 名	特 殊 分 類 格 付	単 位	生産指数 付加価値額 ウェイト	出荷指数 出 荷 額 ウェイト	在庫指数 在 庫 額 ウェイト
鋳工業			10000.0	10000.0	10000.0
製造工業			9998.1	9998.4	9989.6
鉄鋼業			168.2	170.3	245.3
熱間圧延鋼材			x	x	x
小型棒鋼	建	t			
形鋼	建	t			
鋼管			x	x	x
鋼管	建	t			
鑄鍛造品			x	x	x
銑鉄鑄物	鋳	t			
鑄鉄管	建	t			
非鉄金属工業			48.4	48.3	55.2
伸銅・アルミニウム圧延製品			x	x	x
アルミニウム圧延製品 押出	鋳	t			
電線・ケーブル			x	x	x
絶縁電線	資	導体 t			
非鉄金属鑄物			x	x	—
アルミニウムダイカスト	鋳	t			
金属製品工業			631.6	673.6	429.4
建設用金属製品			206.5	206.7	—
鉄骨	建	t			
水門	資	t			
建築用金属製品			310.2	380.0	379.0
木造住宅用アルミニウムサッシ	建	t			
ビル用アルミニウムサッシ	建	t			
アルミニウムドア	建	t			
アルミニウムエクステリア	建	t			
その他のアルミニウム製建具	建	t			
その他の金属製品			114.9	86.9	50.4
架線金物	他	千個			
スチールケース	資	個			
金網	建	t			
自動車用線ばね	鋳	kg			
超硬チップ	鋳	kg			
一般機械工業			941.5	1113.7	207.5
はん用内燃機関			x	x	x
はん用内燃機関	鋳	PS			
農業用機械			x	x	x
コンバイン	資	台			
特殊産業機械			610.8	750.4	—
半導体製造装置	資	百万円			
フラットパネル・ディスプレイ製造装置	資	百万円			

業種及び品目名	特殊 分類 格付	単 位	生産指数 付加価値額 ウェイト	出荷指数 出荷額 ウェイト	在庫指数 在庫額 ウェイト
運搬機械 クレーン	資	t	x	x	—
化学装置 塔槽機器 反応用機器	資 資	t t	82.6	61.3	—
金型 金型	資	kg	9.3	4.8	—
産業用ロボット 産業用ロボット	資	台	43.1	39.6	—
電気機械工業			515.0	311.4	212.2
開閉制御装置・機器 開閉制御装置 電磁リレー 保護継電器 検出スイッチ マイクロスイッチ	資 資 資 資 資	百万円 千台 台 千個 千個	261.8	154.2	212.2
電気計測器 電気測定器	資	百万円	253.2	157.2	—
情報通信機械工業			115.0	126.3	—
通信機械 交換機 ボタン電話装置	資 資	百万円 台	x	x	—
電子計算機付属装置 外部記憶装置	資	台	x	x	—
電子部品・デバイス工業			2047.4	1855.6	1370.1
半導体素子 半導体素子	資	千個	190.2	213.4	x
集積回路 モス型半導体集積回路(マイコン) モス型半導体集積回路(ロジック) モス型半導体集積回路(MEM) モス型半導体集積回路(CCD) 線形半導体集積回路 混成集積回路	資 資 資 資 資 資	百万円 百万円 百万円 百万円 百万円 百万円	1355.4	1187.7	780.0
電子部品 プリント配線板 アクティブ型液晶素子	資 資	m ² 百万円	501.8	454.5	x
輸送機械工業			1704.0	2281.9	122.6
自動車 二輪自動車(125ml超) 二輪自動車(125ml以下) 特殊自動車 KDセット	耐 耐 耐 耐	台 台 台 台	x	x	x
自動車部品 イグニッションコイル 自動変速装置 スイッチ類 消音器 二輪自動車用エンジン 自動車用エンジン	資 資 資 資 資 資	千個 個 千個 個 百万円 百万円	x	x	—

業種及び品目名	特殊 分類 格付	単 位	生産指数 付加価値額 ウエイト	出荷指数 出荷額 ウエイト	在庫指数 在庫額 ウエイト
船舶			x	x	x
鋼船	資	GT			
プラスチック製舟艇	資	隻			
船用ディーゼル機関	資	千P S			
窯業・土石製品工業			359.9	260.9	787.3
生コンクリート	建	m ³	142.8	119.6	—
生コンクリート	建	m ³			
コンクリート・セメント製品	建	t	140.8	98.4	756.0
遠心力鉄筋コンクリート製品	建	千個			
空洞コンクリートブロック	建	t			
護岸用コンクリートブロック	建	t			
道路用コンクリート製品	建	t			
セメント瓦	建	千m ²			
軽量気泡コンクリート	建	m ³			
陶磁器	他	t	9.1	7.0	15.4
電気用品	他	t			
その他の窯業・土石製品			67.2	35.9	15.9
ブラシ	鉱	kg			
特殊炭素製品	鉱	t			
石灰	鉱	t			
化学工業			487.4	350.3	669.5
化学肥料	他	t	x	x	x
複合肥料	他	t			
無機薬品・高圧ガス	鉱	千m ³	11.7	8.2	7.2
窒素	鉱	t			
硫酸アルミニウム	鉱	t			
有機薬品	鉱	t	x	x	x
無水酢酸	鉱	t			
酢酸	鉱	t			
プラスチック	鉱	t	x	x	x
ポリビニルアルコール	鉱	t			
その他の樹脂	鉱	t			
石けん・合成洗剤界面活性剤	非	t	13.6	11.8	17.8
合成洗剤	非	t			
クレンザー	非	t			
漂白剤	非	t			
塗料	鉱	t	x	x	x
合成樹脂塗料	鉱	t			
医薬品	非	百万円	318.4	192.9	—
医薬品	非	百万円			
プラスチック製品工業			385.8	312.6	1123.1
プラスチック製パイプ・建材	建	t	17.4	12.9	x
プラスチック製パイプ	建	t			
プラスチック製建材	建	t			
プラスチックフィルム	鉱	t	155.5	150.0	707.2
プラスチックフィルム	鉱	t			
工業用プラスチック製品	鉱	t	146.2	98.2	189.5
プラスチック製機械器具部品	鉱	t			
発泡・強化プラスチック製品	建	t	18.3	13.0	x
強化プラスチック製品	建	t			
発泡プラスチック製品	建	t			

業種及び品目名	特殊 分類 格付	単 位	生産指数 付加価値額 ウェイト	出荷指数 出荷額 ウェイト	在庫指数 在庫額 ウェイト
その他のプラスチック製品 日用品・雑貨プラスチック製品 プラスチック製容器 その他のプラスチック製品	非 非 他	t t t	48.4	38.5	157.7
パルプ・紙・紙加工品工業			284.8	247.3	809.9
紙 新聞巻取紙 印刷用紙(非塗工類) 印刷用紙(塗工類) 情報用紙	鉍 鉍 鉍 鉍	t t t t	x	x	x
紙加工品 段ボール	鉍	千m ²	x	x	x
繊維工業			185.3	129.9	812.1
紡績 綿糸 合成繊維糸 ビスコーススフ糸	鉍 鉍 鉍	t t t	26.1	19.7	214.9
織物 タイヤコード タオル	鉍 非	t t	17.4	12.3	x
衣類 織物製外衣 ニット製外衣 下着 補整着 靴下	非 非 非 非 非	千点 千点 千点 千点 千点	117.4	79.1	459.0
その他の繊維製品 ニット生地 漁網・陸上網 ふとん	鉍 資 耐	t t 枚	24.4	18.6	x
ゴム製品工業			386.4	311.0	538.7
ゴムホース ゴムホース	鉍	千m	60.5	37.9	57.0
工業用ゴム製品 パッキン類 その他の工業用ゴム製品	鉍 鉍	新ゴム量t 新ゴム量t	325.9	273.1	481.7
木材・木製品工業			139.5	139.7	620.6
一般製材 一般製材	建	m ³	111.0	97.5	425.5
合板 普通合板	建	m ³	28.5	42.2	195.1
食料品・たばこ工業			1473.5	1558.3	1946.7
肉製品 枝肉 ハム・ソーセージ ブロイラー	鉍 非 鉍	t t 千羽	223.0	279.4	49.6
乳製品 練粉乳 飲用牛乳 乳酸飲料	鉍 非 非	t kl kl	71.7	134.0	74.3

業種及び品目名	特殊 分類 格付	単 位	生産指数 付加価値額 ウェイト	出荷指数 出荷額 ウェイト	在庫指数 在庫額 ウェイト
製粉・製粉製品			343.3	235.3	233.6
パン	非	t			
小麦粉	鉦	t			
めん類	非	t			
調味料			30.4	19.9	209.5
みそ	非	t			
しょう油	非	kl			
その他の食料品			125.9	117.5	721.2
缶詰	非	t			
加工海苔	非	千枚			
冷凍調理食品	非	t			
飲料			600.5	456.6	169.2
清涼飲料	非	kl			
ビール・発泡酒	非	kl			
焼酎	非	kl			
清酒	非	kl			
たばこ			x	x	x
葉たばこ	鉦	t			
飼料			x	x	x
配合飼料	他	t			
その他の工業			124.4	107.5	39.4
家具工業			9.8	15.1	32.8
金属製棚	資	個			
印刷業			89.5	75.0	—
平版印刷	他	百万円			
フレキソ印刷	他	百万円			
その他製品工業			25.1	17.4	6.6
ミシン針	非	千本			
畳表	非	千枚			
鉱業			1.9	1.6	10.4
非金属鉱業			1.9	1.6	10.4
陶石	鉦	t			
石灰石	鉦	t			

※特殊分類格付けは略記しており、それぞれ次の分類を指す。

「資」＝資本財、「建」＝建設財、「耐」＝耐久消費財、「非」＝非耐久消費財、
「鉦」＝鉦工業用生産財、「他」＝その他用生産財

Ⅱ 平成23年熊本県鉱工業指数の動向

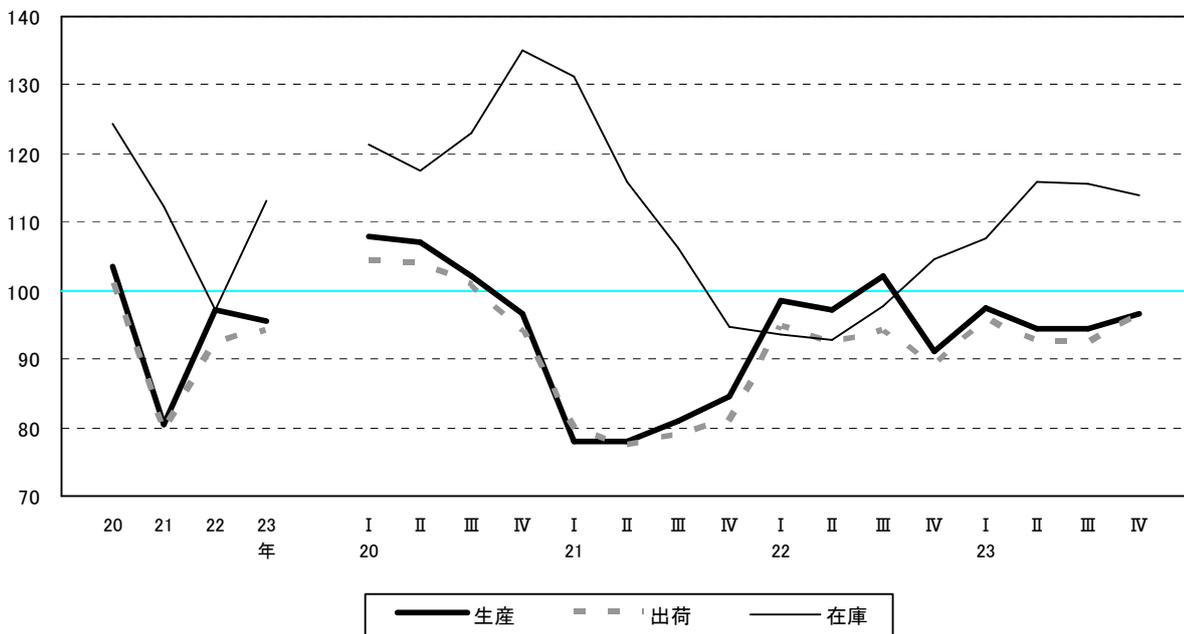
1 概況

本県における平成23年の鉱工業指数は、生産指数が前年比▲1.5%の95.6となり、低下した。業種別に見ると、一般機械工業や食料品・たばこ工業など8業種が上昇したが、電子部品・デバイス工業や電気機械工業など8業種が低下した。

出荷指数は前年比1.6%の94.1となり2年連続で上昇した。業種別に見ると、一般機械工業や食料品・たばこ工業など8業種が上昇したが、電気機械工業や輸送機械工業など8業種が低下した。

在庫指数は前年比16.5%の113.2となり3年ぶりに上昇した。業種別に見ると、電子部品・デバイス工業やゴム製品工業など9業種が上昇したが、木材・木製品工業や化学工業など6業種が低下した。

第1図 熊本県鉱工業生産・出荷・在庫指数の推移 (H17=100)



第1表 熊本県鉱工業指数及び増減率(平成17年=100)

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1~3月	II 4~6月	III 7~9月	IV 10~12月	I 1~3月	II 4~6月	III 7~9月	IV 10~12月
生産指数	97.1	95.6	98.6	97.1	102.0	91.1	97.4	94.4	94.4	96.7
前期比	-	-	16.7	▲1.5	5.0	▲10.7	6.9	▲3.1	0.0	2.4
前年(同期)比	20.9	▲1.5	26.7	24.7	26.2	7.8	1.2	▲3.7	▲7.4	4.1
出荷指数	92.6	94.1	94.6	92.3	94.2	89.5	95.8	92.4	92.5	96.3
前期比	-	-	16.6	▲2.4	2.1	▲5.0	7.0	▲3.5	0.1	4.1
前年(同期)比	16.9	1.6	19.6	19.9	19.4	9.3	2.5	▲0.5	▲1.5	6.0
在庫指数	97.2	113.2	93.6	92.8	97.8	104.6	107.6	115.9	115.7	113.9
前期比	-	-	▲1.2	▲0.9	5.4	7.0	2.9	7.7	▲0.2	▲1.6
前年(同期)比	▲13.4	16.5	▲27.7	▲20.7	▲8.2	9.7	15.6	24.5	18.3	8.7

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

(1)生産の動向

年平均の生産指数は、前年比▲1.5%の95.6となり、低下した。

業種別で見ると、一般機械工業(前年比18.2%)、食料品・たばこ工業(同4.8%)、ゴム製品工業(同▲15.8%)など8業種は上昇したものの、電子部品・デバイス工業(▲11.6%)、電気機械工業(同▲16.8%)、輸送機械工業(同▲2.3%)など8業種が低下した。

以下は、四半期別の動き。

① 1～3月期

前期比6.9%の97.4となり、上昇した。業種別で見ると、電気機械工業(前期比61.5%)、電子部品・デバイス工業(同10.6%)、輸送機械工業(同8.8%)など8業種が上昇した。一方、化学工業(同▲14.0%)、一般機械工業(同▲6.7%)、木材・木製品工業(同▲6.1%)の8業種が低下した。

② 4～6月期

前期比▲3.1%の94.4となり、低下した。業種別で見ると、化学工業(前期比15.9%)、食料品・たばこ工業(同4.6%)、金属製品工業(同12.4%)など6業種が上昇した。一方、電子部品・デバイス工業(同▲11.1%)、輸送機械工業(同▲13.0%)、電気機械工業(同▲15.4%)など10業種が低下した。

③ 7～9月期

前期から横ばいの94.4となった。業種別で見ると、電子部品・デバイス工業(前期比6.4%)、金属製品工業(同7.0%)、輸送機械工業(同1.9%)など7業種が上昇した。一方、電気機械工業(同▲20.8%)、プラスチック製品工業(同▲11.4%)、一般機械工業(同▲3.6%)など9業種が低下した。

④ 10～12月期

前期比2.4%の96.7となり、3期ぶりに上昇した。業種別で見ると、電気機械工業(前期比48.6%)、一般機械工業(同24.6%)、輸送機械工業(同6.2%)など7業種が上昇した。一方、電子部品・デバイス工業(同▲3.1%)、化学工業(同▲8.7%)、食料品・たばこ工業(同▲1.9%)など9業種が低下した。

第2表 主な上昇・低下業種の対前年増減率及び寄与度(生産)

	業 種	業 種		
		増減率(%)	寄与度(%)	
上 昇	一般機械工業	18.2	一般機械工業	1.48
	ゴム製品工業	15.8	食料品・たばこ工業	0.63
	プラスチック製品工業	8.2	ゴム製品工業	0.41
低	鋁業	▲30.3	電子部品・デバイス工業	▲2.60
	電気機械工業	▲16.8	電気機械工業	▲1.27
下	電子部品・デバイス工業	▲11.6	輸送機械工業	▲0.31

第3表 業種別対前年増減率（生産）

区 分	ウェイト	原 指 数					前 年 比(%)					寄与度 (%)
		平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	
鉱 工 業	10000.0	109.3	103.6	80.3	97.1	95.6	▲0.3	▲5.2	▲22.5	20.9	▲1.5	▲1.50
製 造 工 業	9998.1	109.3	103.6	80.3	97.1	95.6	▲0.3	▲5.2	▲22.5	20.9	▲1.5	▲1.50
鉄 鋼 業	168.2	105.8	93.2	62.9	72.2	74.3	6.7	▲11.9	▲32.5	14.8	2.9	0.03
非鉄金属工業	48.4	104.3	93.7	59.2	72.6	72.7	▲2.0	▲10.2	▲36.8	22.6	0.1	0.00
金属製品工業	631.6	104.5	92.6	73.2	80.4	79.4	▲3.2	▲11.4	▲21.0	9.8	▲1.2	▲0.06
一般機械工業	941.5	118.0	78.2	49.0	90.7	107.2	6.3	▲33.7	▲37.3	85.1	18.2	1.48
電気機械工業	515.0	121.1	107.6	48.5	153.2	127.4	▲24.7	▲11.1	▲54.9	215.9	▲16.8	▲1.27
情報通信機械工業	115.0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
電子部品・デバイス工業	2047.4	137.8	138.6	103.7	114.3	101.0	12.5	0.6	▲25.2	10.2	▲11.6	▲2.60
輸送機械工業	1704.0	91.9	94.4	71.2	81.0	79.1	▲7.4	2.7	▲24.6	13.8	▲2.3	▲0.31
窯業・土石製品工業	359.9	108.9	107.3	81.7	91.4	93.6	3.1	▲1.5	▲23.9	11.9	2.4	0.08
化学工業	487.4	104.4	105.7	107.7	125.5	126.0	▲0.3	1.2	1.9	16.5	0.4	0.02
プラスチック製品工業	385.8	111.0	111.1	92.3	106.5	115.2	5.8	0.1	▲16.9	15.4	8.2	0.32
パルプ・紙・紙加工品工業	284.8	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
繊維工業	185.3	83.3	79.7	66.2	65.8	63.6	▲12.2	▲4.3	▲16.9	▲0.6	▲3.3	▲0.04
ゴム製品工業	386.4	94.4	86.1	42.5	69.6	80.6	▲5.0	▲8.8	▲50.6	63.8	15.8	0.41
木材・木製品工業	139.5	93.0	82.8	77.8	104.4	95.7	▲11.6	▲11.0	▲6.0	34.2	▲8.3	▲0.12
食料品・たばこ工業	1473.5	99.3	97.9	95.7	94.1	98.6	▲1.2	▲1.4	▲2.2	▲1.7	4.8	0.63
その他の工業	124.4	95.0	89.3	86.6	93.1	90.0	▲3.0	▲6.0	▲3.0	7.5	▲3.3	▲0.04
鉱 業	1.9	90.8	94.5	82.6	76.0	53.0	▲6.5	4.1	▲12.6	▲8.0	▲30.3	▲0.01

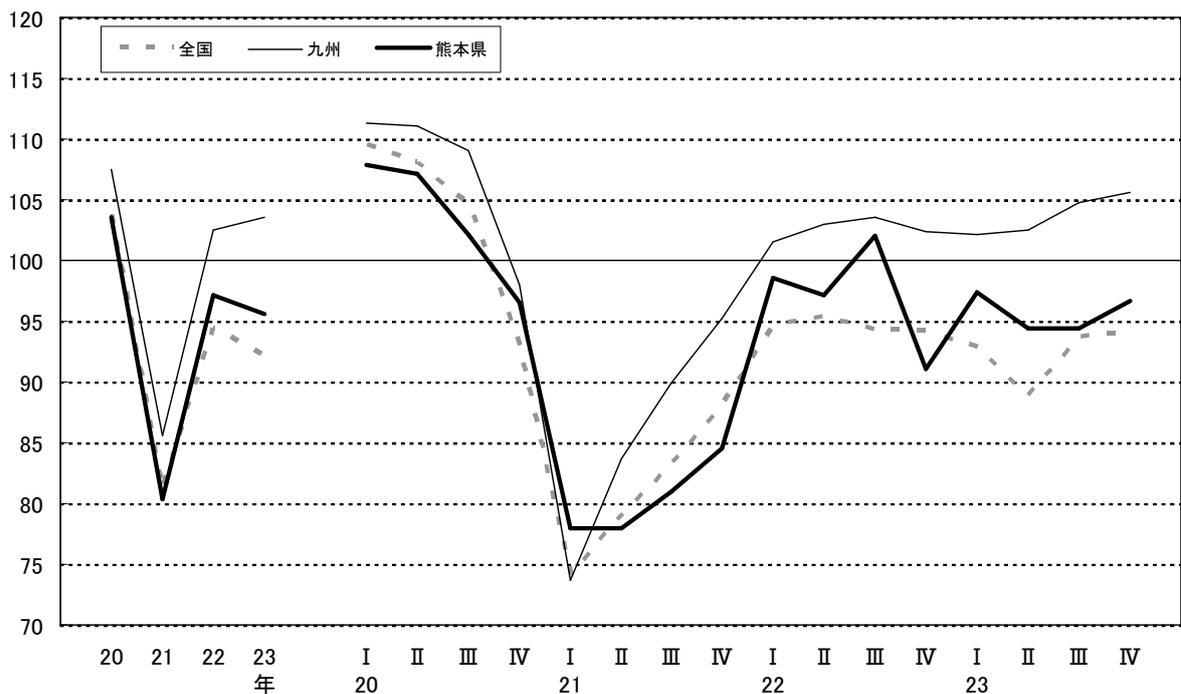
第4表 業種別対前期増減率（生産）

区 分	季 節 調 整 済 指 数						前 期 比(%)					
	平成22年		平成 23 年				平成22年		平成 23 年			
	Ⅲ 7～9 月期	Ⅳ 10～12 月期	Ⅰ 1～3 月期	Ⅱ 4～6 月期	Ⅲ 7～9 月期	Ⅳ 10～12 月期	Ⅲ 7～9 月期	Ⅳ 10～12 月期	Ⅰ 1～3 月期	Ⅱ 4～6 月期	Ⅲ 7～9 月期	Ⅳ 10～12 月期
鉱 工 業	102.0	91.1	97.4	94.4	94.4	96.7	5.0	▲10.7	6.9	▲3.1	0.0	2.4
製 造 工 業	102.0	91.1	97.4	94.4	94.4	96.7	5.0	▲10.7	6.9	▲3.1	0.0	2.4
鉄 鋼 業	68.2	75.7	81.0	68.5	71.0	77.3	▲3.7	11.0	7.0	▲15.4	3.6	8.9
非鉄金属工業	71.0	69.3	63.6	66.4	78.7	81.2	▲2.6	▲2.4	▲8.2	4.4	18.5	3.2
金属製品工業	97.6	70.8	70.2	78.9	84.4	82.8	29.4	▲27.5	▲0.8	12.4	7.0	▲1.9
一般機械工業	106.5	109.1	101.8	104.4	100.6	125.3	32.5	2.4	▲6.7	2.6	▲3.6	24.6
電気機械工業	205.1	92.5	149.4	126.4	100.1	148.7	16.9	▲54.9	61.5	▲15.4	▲20.8	48.6
情報通信機械工業	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
電子部品・デバイス工業	112.8	97.4	107.7	95.7	101.8	98.6	▲3.3	▲13.7	10.6	▲11.1	6.4	▲3.1
輸送機械工業	76.7	78.6	85.5	74.4	75.8	80.5	▲8.8	2.5	8.8	▲13.0	1.9	6.2
窯業・土石製品工業	94.5	97.5	97.1	95.9	94.3	88.4	6.5	3.2	▲0.4	▲1.2	▲1.7	▲6.3
化学工業	118.8	134.2	115.4	133.7	132.6	121.1	4.1	13.0	▲14.0	15.9	▲0.8	▲8.7
プラスチック製品工業	102.4	106.8	120.6	122.6	108.6	110.3	▲4.0	4.3	12.9	1.7	▲11.4	1.6
パルプ・紙・紙加工品工業	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
繊維工業	67.2	63.2	64.3	63.6	65.6	61.2	0.9	▲6.0	1.7	▲1.1	3.1	▲6.7
ゴム製品工業	71.4	74.9	83.2	80.6	79.1	79.8	4.4	4.9	11.1	▲3.1	▲1.9	0.9
木材・木製品工業	106.7	111.1	104.3	96.8	93.4	89.4	1.5	4.1	▲6.1	▲7.2	▲3.5	▲4.3
食料品・たばこ工業	95.1	92.3	96.1	100.5	99.7	97.8	0.6	▲2.9	4.1	4.6	▲0.8	▲1.9
その他の工業	92.4	94.3	93.2	89.8	90.4	87.1	▲1.8	2.1	▲1.2	▲3.6	0.7	▲3.7
鉱 業	74.3	77.8	76.3	55.4	54.7	31.2	6.9	4.7	▲1.9	▲27.4	▲1.3	▲43.0

第5表 全国、九州、熊本県の鉱工業生産指数推移の比較

	全 国		九 州		熊 本 県	
	指 数	前年(期)比%	指 数	前年(期)比%	指 数	前年(期)比%
20年	103.8	▲ 3.4	107.5	▲ 2.3	103.6	▲ 5.2
21年	81.1	▲ 21.9	85.6	▲ 20.4	80.3	▲ 22.5
22年	94.4	16.4	102.5	19.7	97.1	20.9
23年	92.2	▲ 2.3	103.6	1.1	95.6	▲ 1.5
平成20年 I 期	109.5	0.3	111.3	▲ 1.2	107.8	1.1
II 期	108.1	▲ 1.3	111.1	▲ 0.2	107.1	▲ 0.6
III 期	104.6	▲ 3.2	109.1	▲ 1.8	102.2	▲ 4.6
IV 期	92.8	▲ 11.3	98.0	▲ 10.2	96.6	▲ 5.5
平成21年 I 期	74.2	▲ 20.0	73.7	▲ 24.8	78.0	▲ 19.3
II 期	79.0	6.5	83.7	13.6	78.0	0.0
III 期	83.2	5.3	89.9	7.4	81.0	3.8
IV 期	88.1	5.9	95.2	5.9	84.5	4.3
平成22年 I 期	94.6	7.4	101.6	6.7	98.6	16.7
II 期	95.3	0.7	103.0	1.4	97.1	▲ 1.5
III 期	94.3	▲ 1.0	103.6	0.6	102.0	5.0
IV 期	94.2	▲ 0.1	102.4	▲ 1.2	91.1	▲ 10.7
平成23年 I 期	92.8	▲ 1.5	102.1	▲ 0.3	97.4	6.9
II 期	88.9	▲ 4.2	102.5	0.4	94.4	▲ 3.1
III 期	93.7	5.4	104.8	2.2	94.4	0.0
IV 期	94.1	0.4	105.6	0.8	96.7	2.4

第2図 全国、九州、熊本県の鉱工業生産指数推移グラフ



(2) 出荷の動向

出荷指数は前年比1.6%の94.1となり、2年連続で上昇した。

四半期別に見ると、1～3月期に前期比7.0%と上昇したが、4～6月期に同▲3.5%と低下した。7～9月期に同0.1%、10～12月期に同4.1%と2期連続で上昇した。

業種別に見ると、電気機械工業(前年比▲17.0%)、輸送機械工業(同▲3.2%)、木材・木製品工業(同▲5.2%)など8業種が低下したものの、一般機械工業(同16.4%)、食料品・たばこ工業(同3.1%)、電子部品・デバイス工業(同2.3%)など8業種が上昇した。

第6表 主な上昇・低下業種の対前年増減率及び寄与度(出荷)

	業 種	増減率(%)	業 種	寄与度(%)
上 昇	一般機械工業	16.4	一般機械工業	1.84
	ゴム製品工業	8.8	食料品・たばこ工業	0.50
	プラスチック製品工業	7.8	電子部品・デバイス工業	0.49
低	鉱業	▲28.2	電気機械工業	▲0.92
	電気機械工業	▲17.0	輸送機械工業	▲0.65
下	木材・木製品工業	▲5.2	木材・木製品工業	▲0.08

第7表 業種別対前年増減率(出荷)

区 分	ウェイト	原 指 数					前 年 比(%)					寄与度(%)
		平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	
鉱 工 業	10000.0	108.3	101.0	79.2	92.6	94.1	▲0.3	▲6.7	▲21.6	16.9	1.6	1.61
製 造 工 業	9998.4	108.3	101.0	79.2	92.6	94.1	▲0.3	▲6.7	▲21.6	16.9	1.6	1.60
鉄 鋼 業	170.3	104.7	94.9	63.1	72.1	74.0	5.9	▲9.4	▲33.5	14.3	2.6	0.04
非鉄金属工業	48.3	102.8	92.3	59.3	73.0	72.3	▲2.4	▲10.2	▲35.8	23.1	▲1.0	0.00
金属製品工業	673.6	103.1	91.0	72.1	78.5	79.2	▲3.5	▲11.7	▲20.8	8.9	0.9	0.05
一般機械工業	1113.7	122.1	79.2	45.2	91.7	106.7	6.5	▲35.1	▲42.9	102.9	16.4	1.84
電気機械工業	311.4	120.4	107.8	47.4	156.9	130.2	▲25.9	▲10.5	▲56.0	231.0	▲17.0	▲0.92
情報通信機械工業	126.3	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
電子部品・デバイス工業	1855.6	137.8	134.4	101.4	105.8	108.2	13.5	▲2.5	▲24.6	4.3	2.3	0.49
輸送機械工業	2281.9	91.3	93.4	71.0	80.7	78.1	▲7.9	2.3	▲24.0	13.7	▲3.2	▲0.65
窯業・土石製品工業	260.9	106.2	103.2	79.8	86.8	87.8	3.8	▲2.8	▲22.7	8.8	1.2	0.03
化学工業	350.3	102.3	101.2	102.5	119.4	118.2	▲3.1	▲1.1	1.3	16.5	▲1.0	▲0.05
プラスチック製品工業	312.6	108.5	108.7	92.1	105.8	114.1	6.4	0.2	▲15.3	14.9	7.8	0.29
パルプ・紙・紙加工品工業	247.3	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
織 維 工 業	129.7	85.8	80.3	65.3	64.9	62.0	▲7.5	▲6.4	▲18.7	▲0.6	▲4.5	▲0.04
ゴム製品工業	311.0	102.1	92.2	58.1	80.3	87.4	▲2.9	▲9.7	▲37.0	38.2	8.8	0.24
木材・木製品工業	139.7	89.9	84.1	78.6	104.3	98.9	▲17.4	▲6.5	▲6.5	32.7	▲5.2	▲0.08
食料品・たばこ工業	1558.3	100.0	99.0	99.6	92.3	95.2	▲3.2	▲1.0	0.6	▲7.3	3.1	0.50
その他の工業	107.5	96.1	90.3	86.5	93.6	92.0	▲4.6	▲6.0	▲4.2	8.2	▲1.7	▲0.02
鉱 業	1.6	87.6	81.5	79.1	71.9	51.6	▲3.2	▲7.0	▲2.9	▲9.1	▲28.2	0.00

(3)在庫の動向

在庫指数は前年比16.5%の113.2となり、3年ぶりに上昇した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比2.9%、4～6月期は7.7%と4期連続で上昇したが、7～9月期は同▲0.2%、10～12月期は同▲1.6%と2期連続で低下した。

業種別に見ると、木材・木製品工業(前年比▲22.3%)、化学工業(同▲12.2%)、プラスチック製品工業(同▲4.9%)など6業種が低下したものの、電子部品・デバイス工業(前年比81.4%)、ゴム製品工業(同21.4%)、電気機械工業(同28.7%)など9業種が上昇した。

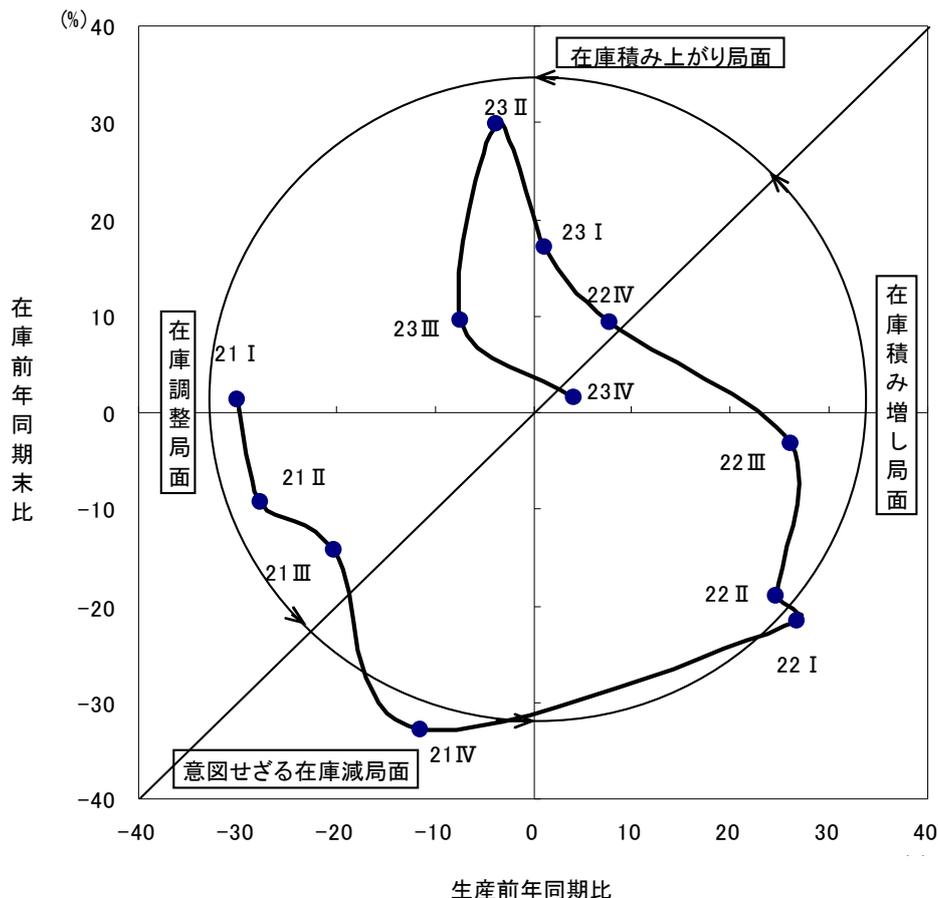
第8表 主な上昇・低下業種の対前年増減率及び寄与度(在庫)

	業 種	増減率(%)	業 種	寄与度(%)
上 昇	電子部品・デバイス工業	81.4	電子部品・デバイス工業	17.14
	電気機械工業	28.7	ゴム製品工業	1.02
	ゴム製品工業	21.4	電気機械工業	0.63
低 下	木材・木製品工業	▲22.3	木材・木製品工業	▲1.73
	鉱業	▲15.0	化学工業	▲0.73
	化学工業	▲12.2	プラスチック製品工業	▲0.61

第9表 業種別対前年増減率(在庫)

区 分	ウェイト	原 指 数					前 年 比(%)					寄与度 (%)
		平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	
鉄 工 業	10000.0	113.2	124.3	112.2	97.2	113.2	1.1	9.8	▲9.7	▲13.4	16.5	16.47
製 造 工 業	9989.6	113.2	124.3	112.2	97.2	113.2	1.1	9.8	▲9.7	▲13.4	16.5	16.52
鉄 鋼 業	245.3	116.0	115.6	89.3	89.6	95.1	8.2	▲0.3	▲22.8	0.3	6.1	0.13
非 鉄 金 属 工 業	55.2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
金 属 製 品 工 業	429.4	56.7	44.8	42.0	38.0	44.7	▲8.3	▲21.0	▲6.2	▲9.5	17.6	0.30
一 般 機 械 工 業	207.5	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
電 気 機 械 工 業	212.2	133.2	166.6	127.7	98.5	126.8	21.2	25.1	▲23.3	▲22.9	28.7	0.63
情 報 通 信 機 械 工 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス 工 業	1370.1	208.3	269.0	212.9	148.7	269.7	5.7	29.1	▲20.9	▲30.2	81.4	17.14
輸 送 機 械 工 業	122.6	97.5	186.9	129.1	114.0	123.6	▲10.0	91.7	▲30.9	▲11.7	8.4	0.12
窯 業 ・ 土 石 製 品 工 業	787.3	88.7	76.7	73.9	67.8	61.6	▲5.9	▲13.5	▲3.7	▲8.3	▲9.1	▲0.51
化 学 工 業	669.5	87.1	99.2	106.9	85.1	74.7	▲13.6	13.9	7.8	▲20.4	▲12.2	▲0.73
プ ラ ス チ ッ ク 製 品 工 業	1123.1	116.0	122.1	118.8	106.8	101.6	0.4	5.3	▲2.7	▲10.1	▲4.9	▲0.61
パ ル プ ・ 紙 ・ 紙 加 工 品 工 業	809.9	98.7	104.6	111.5	109.6	110.9	5.8	6.0	6.6	▲1.7	1.2	0.12
織 維 工 業	812.1	104.0	102.0	106.3	105.2	106.9	5.5	▲1.9	4.2	▲1.0	1.6	0.15
ゴ ム 製 品 工 業	538.7	98.4	143.8	109.2	86.3	104.8	▲24.0	46.1	▲24.1	▲21.0	21.4	1.02
木 材 ・ 木 製 品 工 業	620.6	100.8	97.6	106.0	121.2	94.2	11.6	▲3.2	8.6	14.3	▲22.3	▲1.73
食 料 品 ・ た ば こ 工 業	1946.7	80.4	80.1	73.9	73.4	71.2	▲11.6	▲0.4	▲7.7	▲0.7	▲3.0	▲0.45
そ の 他 の 工 業	39.4	99.6	96.7	93.4	92.5	97.1	4.1	▲2.9	▲3.4	▲1.0	5.0	0.02
鉄 工 業	10.4	80.4	79.6	74.8	69.3	58.9	▲5.4	▲1.0	▲6.0	▲7.4	▲15.0	▲0.02

(参考)第3図 在庫循環の動き



在庫循環図における今年1年(平成23年 I 期～IV 期)の動きを見ると、平成23年 I 期は「在庫積み上がり局面」、II 期から III 期にかけては「在庫調整局面」に位置していたが、IV 期には生産前年同期比がプラスになったため「在庫積み増し局面」に移動した。

※在庫前年同期末比・・・昨年と今年の各3, 6, 9, 12月の在庫指数(原指数)を比較したもの。

《在庫局面について》

- ・意図せざる在庫減局面
需要の増加に追いつかず在庫が減少する。
- ・在庫積み増し局面
需要が供給より多くなると、生産を拡大し、在庫を積み増して需要に対応する。
- ・在庫積み上がり局面
供給が需要より多くなると、在庫が、適正水準を超え在庫の積み上がりが起きる。
- ・在庫調整局面
適正水準を超えた在庫を減らすため、生産を抑制し在庫調整を図る。

2 業種別の動向

(1) 鉄鋼業

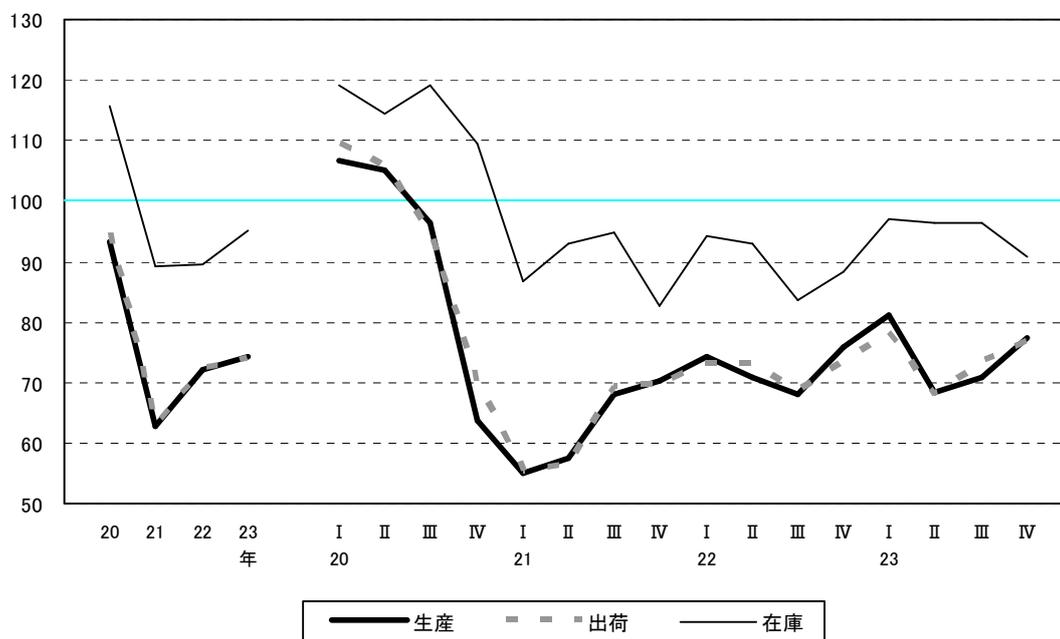
生産指数は、前年比2.9%の74.3となり、2年連続で上昇した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比7.0%となり、2期連続で上昇したが、4～6月期は同▲15.4%となり3期ぶりに低下した。7～9月期は同3.6%、10～12月期は同8.9%となり、2期連続で上昇した。

出荷指数は、前年比2.6%の74.0となり、2年連続で上昇した。

在庫指数は、前年比6.1%の95.1となり、2年連続で上昇した。

第4図 鉄鋼業の推移(H17=100)



第10表 鉄鋼業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	72.2	74.3	74.3	70.8	68.2	75.7	81.0	68.5	71.0	77.3
前期比	-	-	5.7	▲4.7	▲3.7	11.0	7.0	▲15.4	3.6	8.9
前年(同期)比	14.8	2.9	34.2	22.9	1.6	6.2	10.8	▲5.0	3.1	2.8
出荷指数	72.1	74.0	73.1	73.1	68.8	73.3	78.2	67.9	73.4	76.9
前期比	-	-	4.9	0.0	▲5.9	6.5	6.7	▲13.2	8.1	4.8
前年(同期)比	14.3	2.6	30.0	28.8	0.4	4.3	8.1	▲8.3	6.9	4.6
在庫指数	89.6	95.1	94.2	93.0	83.5	88.2	97.0	96.3	96.3	90.9
前期比	-	-	13.8	▲1.3	▲10.2	5.6	10.0	▲0.7	0.0	▲5.6
前年(同期)比	0.3	6.1	8.0	1.1	▲11.4	5.2	3.1	6.1	15.2	0.7

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

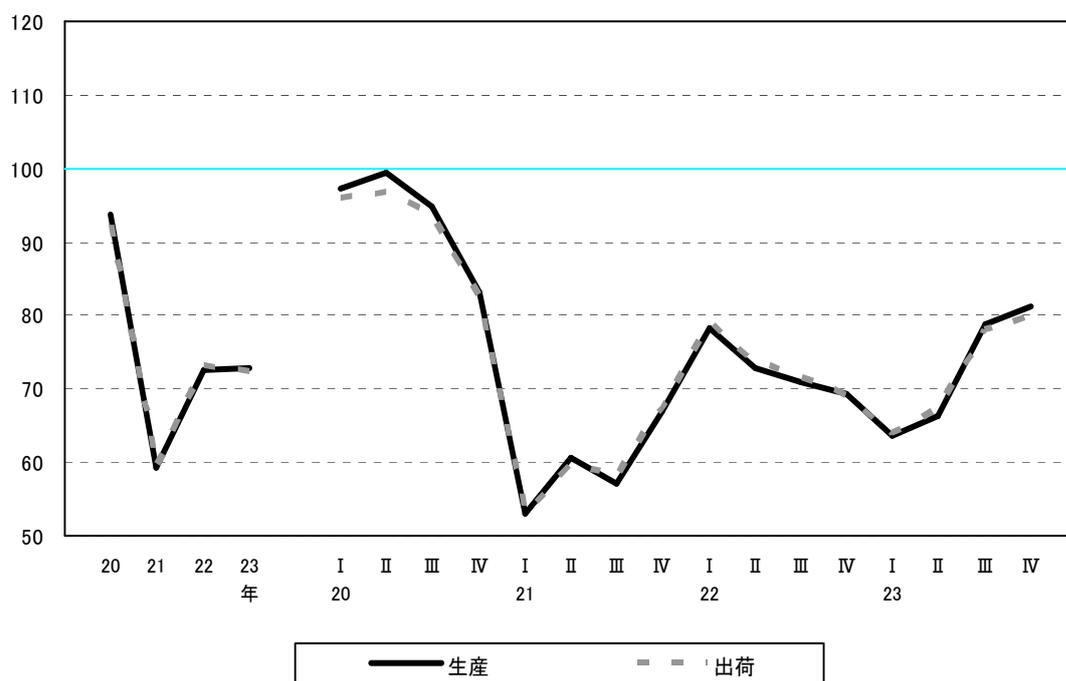
(2)非鉄金属工業

生産指数は、前年比0.1%の72.7となり、2年連続で上昇した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比▲8.2%となり、4期連続で低下したが、4～6月期は同4.4%、7～9月期は同18.5%、10～12月期は同3.2%となり、3期連続で上昇した。

出荷指数は、前年比▲1.0%の72.3となり、低下した。

第5図 非鉄金属工業の推移(H17=100)



第11表 非鉄金属工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	72.6	72.7	78.2	72.9	71.0	69.3	63.6	66.4	78.7	81.2
前期比	-	-	17.2	▲6.8	▲2.6	▲2.4	▲8.2	4.4	18.5	3.2
前年(同期)比	22.6	0.1	48.2	20.8	26.1	3.4	▲17.7	▲9.2	9.7	18.2
出荷指数	73.0	72.3	79.1	73.7	71.3	69.1	63.9	67.0	77.9	79.9
前期比	-	-	17.5	▲6.8	▲3.3	▲3.1	▲7.5	4.9	16.3	2.6
前年(同期)比	23.1	▲1.0	49.5	22.4	25.0	3.1	▲18.1	▲9.4	8.3	16.3
在庫指数	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
前期比	-	-	x	x	x	x	x	x	x	x
前年(同期)比	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

※ 在庫指数については、採用品目が少ないため秘匿とする。

(3) 金属製品工業

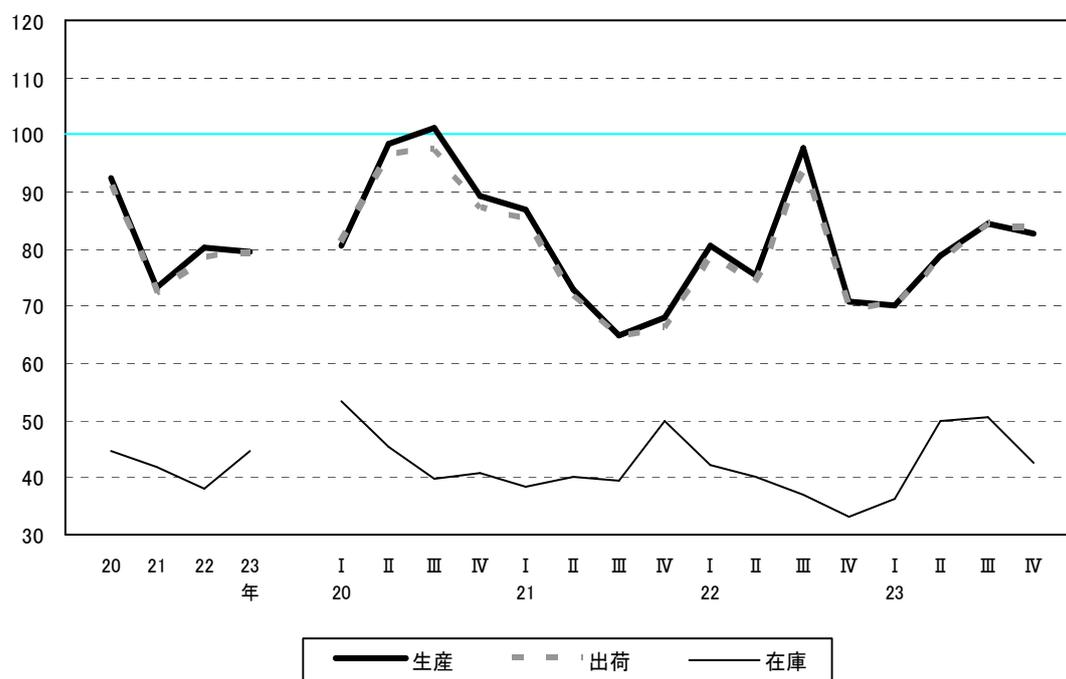
生産指数は、建設用金属製品が大幅に低下したため、前年比▲1.2%の79.4となり、低下した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比▲0.8%となり、2期連続で低下したが、4～6月期は同12.4%、7～9月期は同7.0%となり、2期連続で上昇した。10～12月期は同▲1.9%となり、3期ぶりに低下した。

出荷指数は、建築用金属製品が大幅に上昇したため、前年比0.9%の79.2となり、2年連続で上昇した。

在庫指数は、建築用金属製品が大幅に上昇したため、前年比17.6%の44.7となり、7年ぶりに上昇した。

第6図 金属製品工業の推移(H17=100)



第12表 金属製品工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	80.4	79.4	80.5	75.4	97.6	70.8	70.2	78.9	84.4	82.8
前期比	-	-	18.6	▲6.3	29.4	▲27.5	▲0.8	12.4	7.0	▲1.9
前年(同期)比	9.8	▲1.2	▲8.3	3.5	51.1	0.1	▲13.0	4.8	▲9.6	16.9
出荷指数	78.5	79.2	78.9	73.8	94.0	69.7	70.2	78.0	84.4	83.2
前期比	-	-	18.8	▲6.5	27.4	▲25.9	0.7	11.1	8.2	▲1.4
前年(同期)比	8.9	0.9	▲8.3	3.1	45.0	1.4	▲10.3	5.5	▲6.3	18.1
在庫指数	38.0	44.7	42.1	40.1	36.9	33.0	36.3	49.9	50.7	42.4
前期比	-	-	▲15.8	▲4.8	▲8.0	▲10.6	10.0	37.5	1.6	▲16.4
前年(同期)比	▲9.5	17.6	10.1	1.3	▲8.5	▲33.5	▲14.6	29.1	36.5	24.6

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

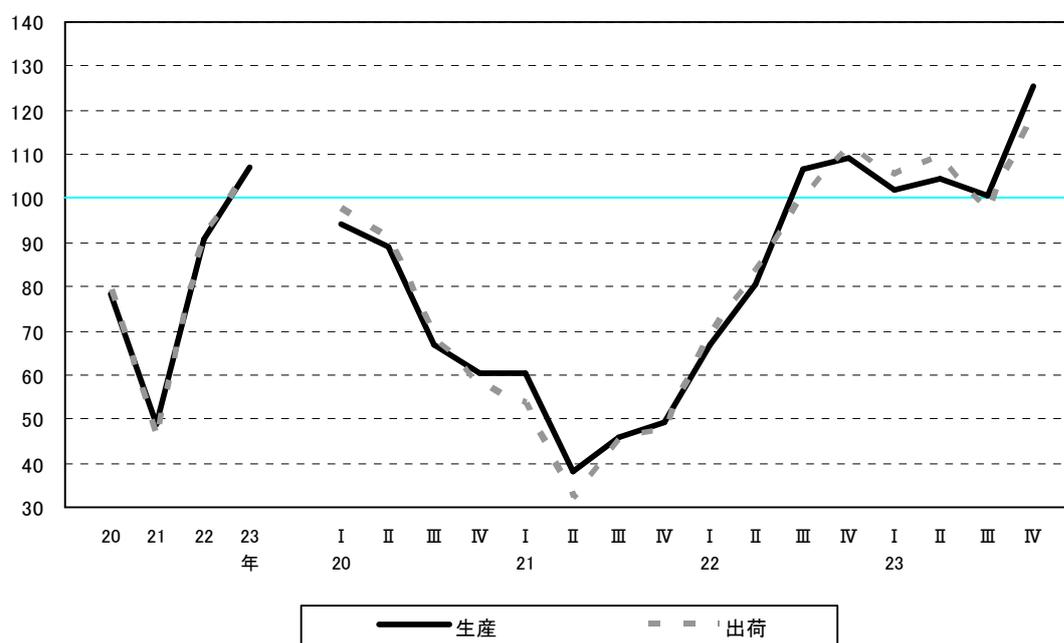
(4) 一般機械工業

生産指数は、特殊産業機械などが上昇したため、前年比18.2%の107.2となり、2年連続で上昇した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比▲6.7%となり、7期ぶりに低下した。4～6月期は同2.6%となり上昇、7～9月期は同▲3.6%となり低下、10～12月期は同24.6%となり上昇した。

出荷指数は、特殊産業機械などが上昇したため、前年比16.4%の106.7となり、2年連続で上昇した。

第7図 一般機械工業の推移(H17=100)



第13表 一般機械工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	90.7	107.2	66.8	80.4	106.5	109.1	101.8	104.4	100.6	125.3
前期比	-	-	35.2	20.4	32.5	2.4	▲6.7	2.6	▲3.6	24.6
前年(同期)比	85.1	18.2	17.2	109.2	127.2	111.0	39.8	35.2	▲5.9	15.1
出荷指数	91.7	106.7	68.9	84.0	100.6	111.9	105.5	109.5	97.4	118.4
前期比	-	-	44.4	21.9	19.8	11.2	▲5.7	3.8	▲11.1	21.6
前年(同期)比	102.9	16.4	36.1	155.1	119.1	128.0	40.3	33.9	▲4.1	6.5
在庫指数	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
前期比	-	-	x	x	x	x	x	x	x	x
前年(同期)比	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

※ 在庫指数については、採用品目が少ないため秘匿とする。

(5) 電気機械工業

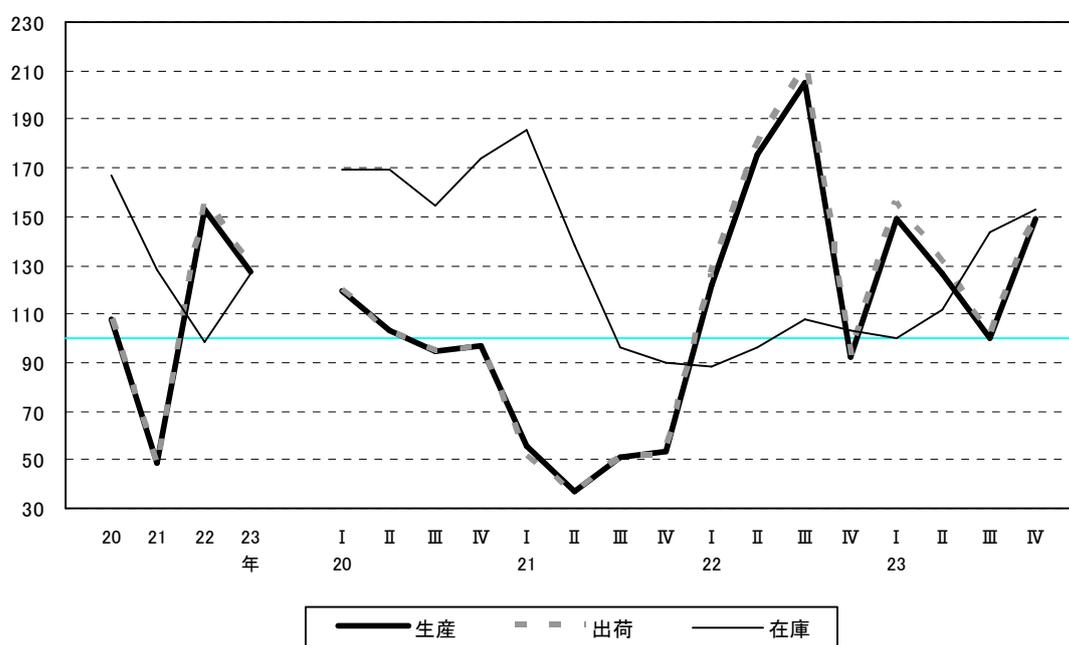
生産指数は、業種を構成する全品目が低下したため、前年比▲16.8%の127.4となり、低下した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比61.5%となり、上昇した。4～6月期は同▲15.4%、7～9月期は同▲20.8%となり、2期連続で低下した。10～12月期は同48.6%となり、3期ぶりに上昇した。

出荷指数は、業種を構成する全品目が低下したため、前年比▲17.0%の130.2となり、低下した。

在庫指数は、開閉制御装置・機器が大幅に上昇したため、前年比28.7%の126.8となり、3年ぶりに上昇した。

第8図 電気機械工業の推移(H17=100)



第14表 電気機械工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	153.2	127.4	122.2	175.5	205.1	92.5	149.4	126.4	100.1	148.7
前期比	-	-	128.4	43.6	16.9	▲54.9	61.5	▲15.4	▲20.8	48.6
前年(同期)比	215.9	▲16.8	141.7	409.8	320.0	50.8	28.2	▲32.9	▲50.4	47.5
出荷指数	156.9	130.2	126.2	179.2	211.9	92.6	156.2	131.6	101.1	151.2
前期比	-	-	138.6	42.0	18.2	▲56.3	68.7	▲15.7	▲23.2	49.6
前年(同期)比	231.0	▲17.0	165.5	423.6	334.8	54.5	28.4	▲31.9	▲50.9	47.8
在庫指数	98.5	126.8	88.2	96.4	108.1	102.9	100.1	112.0	143.6	153.0
前期比	-	-	▲2.2	9.3	12.1	▲4.8	▲2.7	11.9	28.2	6.5
前年(同期)比	▲22.9	28.7	▲50.6	▲29.6	8.2	12.0	12.2	15.8	35.9	48.4

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

(6) 電子部品・デバイス工業

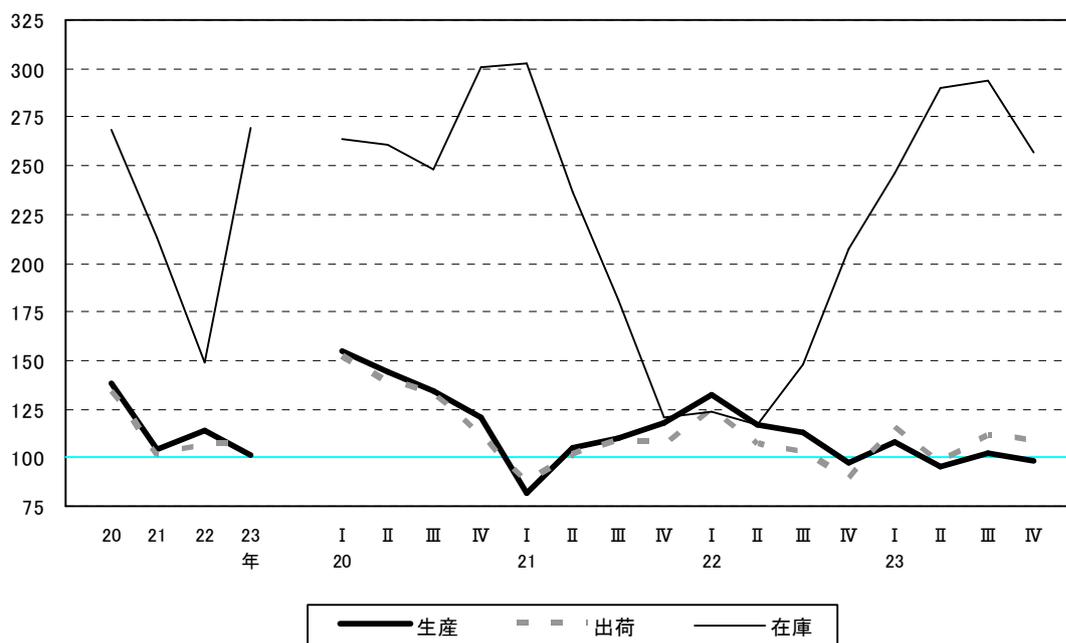
生産指数は、集積回路などが低下したため、前年比▲11.6%の101.0となり、低下した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比10.6%となり、4期ぶりに上昇した。4～6月期は同▲11.1%となり、低下した。7～9月期は同6.4%となり、上昇した。10～12月期は同▲3.1%となり、低下した。

出荷指数は、電子部品が上昇したため、前年比2.3%の108.2となり、2年連続で上昇した。

在庫指数は、集積回路が大幅に上昇したため、前年比81.4%の269.7となり、3年ぶりに上昇した。

第9図 電子部品・デバイス工業の推移(H17=100)



第15表 電子部品・デバイス工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	114.3	101.0	132.7	116.6	112.8	97.4	107.7	95.7	101.8	98.6
前期比	-	-	12.6	▲12.1	▲3.3	▲13.7	10.6	▲11.1	6.4	▲3.1
前年(同期)比	10.2	▲11.6	60.5	10.3	3.2	▲15.6	▲15.4	▲19.9	▲8.6	▲1.8
出荷指数	105.8	108.2	126.0	107.3	102.3	89.9	115.7	97.0	111.1	109.1
前期比	-	-	17.8	▲14.8	▲4.7	▲12.1	28.7	▲16.2	14.5	▲1.8
前年(同期)比	4.3	2.3	43.1	4.4	▲4.8	▲15.3	▲6.4	▲10.0	10.8	16.4
在庫指数	148.7	269.7	124.1	117.1	148.3	207.2	246.1	289.8	293.7	256.8
前期比	-	-	2.6	▲5.6	26.6	39.7	18.8	17.8	1.3	▲12.6
前年(同期)比	▲30.2	81.4	▲58.1	▲51.1	▲20.3	70.6	100.3	149.3	94.2	21.8

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

(7) 輸送機械工業

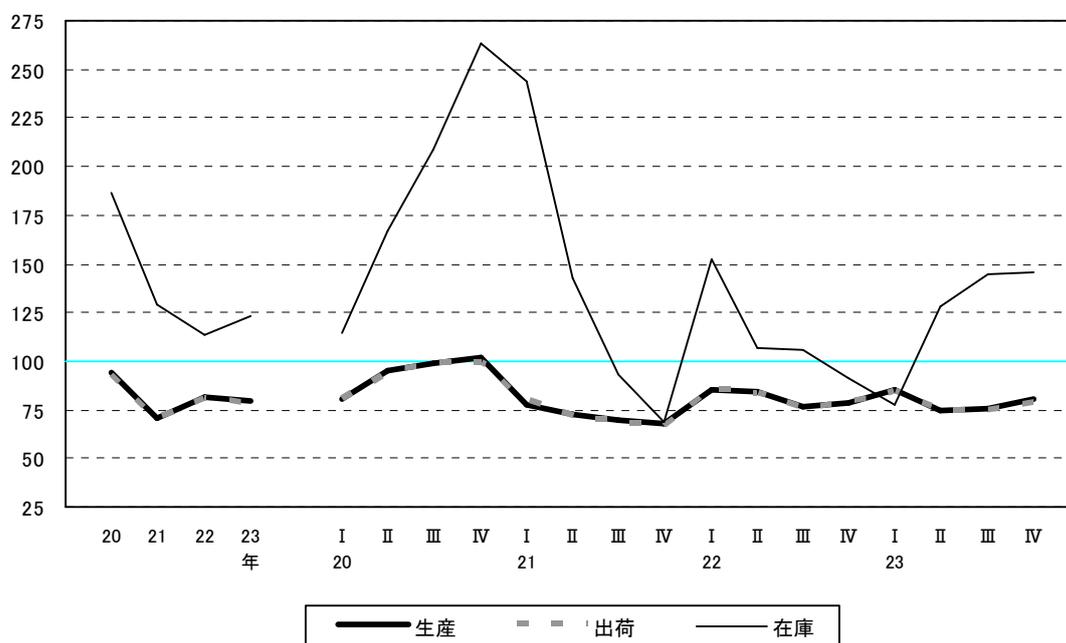
生産指数は、前年比▲2.3%の79.1となり、低下した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比8.8%となり、2期連続で上昇した。4～6月期は同▲13.0%となり3期ぶりに低下した。7～9月期は同1.9%、10～12月期は同6.2%となり、2期連続で上昇した。

出荷指数は、前年比▲3.2%の78.1となり、低下した。

在庫指数は、前年比8.4%の123.6となり、3期ぶりに上昇した。

第10図 輸送機械工業の推移(H17=100)



第16表 輸送機械工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	81.0	79.1	85.7	84.1	76.7	78.6	85.5	74.4	75.8	80.5
前期比	-	-	27.2	▲1.9	▲8.8	2.5	8.8	▲13.0	1.9	6.2
前年(同期)比	13.8	▲2.3	12.1	17.5	12.2	13.5	1.3	▲10.4	▲1.9	1.3
出荷指数	80.7	78.1	86.4	83.8	75.7	78.1	84.3	74.5	75.0	78.5
前期比	-	-	29.7	▲3.0	▲9.7	3.2	7.9	▲11.6	0.7	4.7
前年(同期)比	13.7	▲3.2	9.8	17.5	12.2	15.3	▲0.1	▲11.1	▲1.6	▲0.4
在庫指数	114.0	123.6	152.8	106.4	105.4	91.0	78.0	127.9	144.4	146.0
前期比	-	-	123.4	▲30.4	▲0.9	▲13.7	▲14.3	64.0	12.9	1.1
前年(同期)比	▲11.7	8.4	▲25.9	▲22.1	8.9	18.6	▲48.2	22.6	42.1	58.4

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

(8) 窯業・土石製品工業

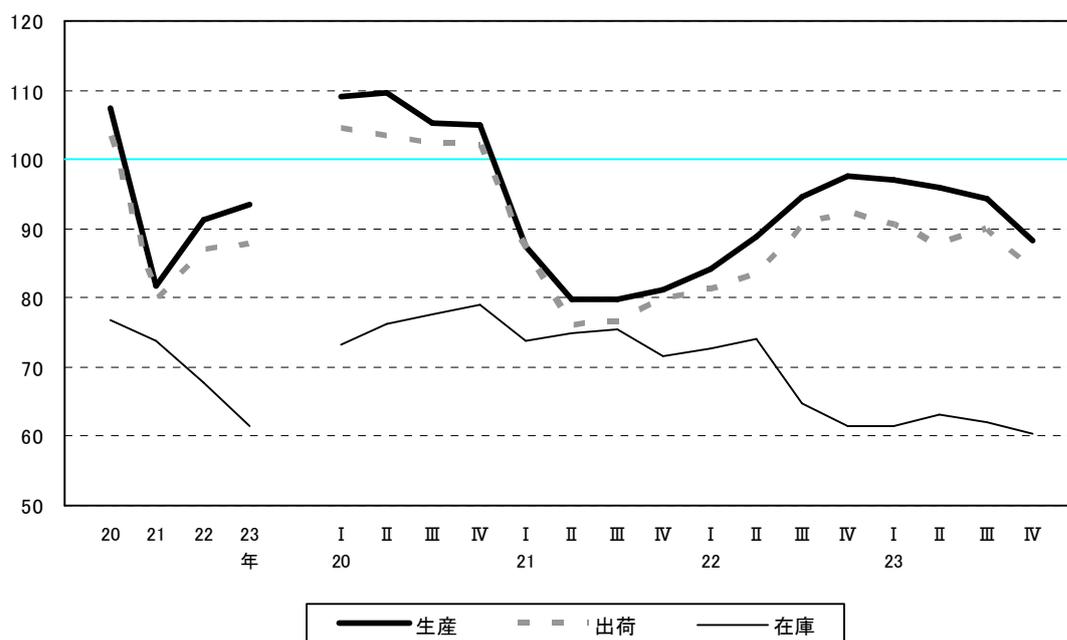
生産指数は、生コンクリートが上昇したため、前年比2.4%の93.6となり、2年連続で上昇した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比▲0.4%となり、6期ぶりに低下した。4～6月期は同▲1.2%、7～9月期は同▲1.7%、10～12月期は同▲6.3%となり、4期連続で低下した。

出荷指数は、生コンクリートが上昇したため、前年比1.2%の87.8となり、2年連続で上昇した。

在庫指数は、コンクリート・セメント製品が低下したため、前年比▲9.1%の61.6となり、13年連続で低下した。

第11図 窯業・土石製品工業の推移(H17=100)



第17表 窯業・土石製品工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	91.4	93.6	84.3	88.7	94.5	97.5	97.1	95.9	94.3	88.4
前期比	-	-	3.8	5.2	6.5	3.2	▲0.4	▲1.2	▲1.7	▲6.3
前年(同期)比	11.9	2.4	▲2.9	10.4	18.9	21.8	15.6	7.7	▲0.4	▲9.5
出荷指数	86.8	87.8	81.1	83.3	90.5	92.3	90.4	87.8	89.8	84.1
前期比	-	-	1.5	2.7	8.6	2.0	▲2.1	▲2.9	2.3	▲6.3
前年(同期)比	8.8	1.2	▲5.7	7.4	18.5	17.6	12.7	3.4	▲0.4	▲9.1
在庫指数	67.8	61.6	72.6	74.0	64.8	61.4	61.4	63.0	61.9	60.5
前期比	-	-	1.4	1.9	▲12.4	▲5.2	0.0	2.6	▲1.7	▲2.3
前年(同期)比	▲8.3	▲9.1	▲3.2	0.3	▲14.2	▲14.4	▲16.3	▲13.1	▲4.0	▲3.0

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

(9) 化学工業

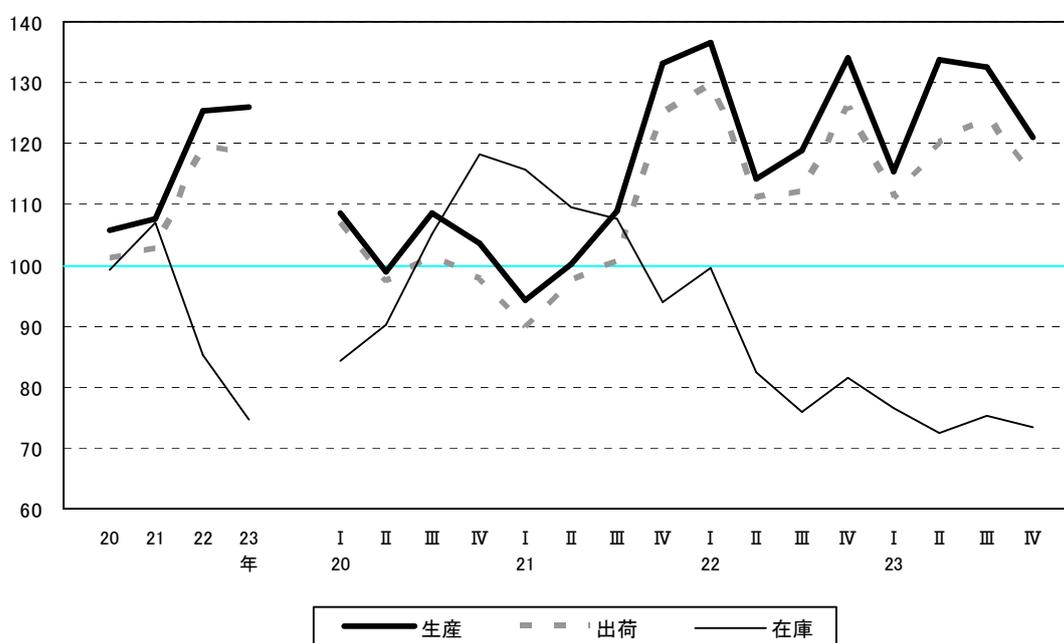
生産指数は、無機薬品・高圧ガスが上昇したため、前年比0.4%の126.0となり、4年連続で上昇した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比▲14.0%となり、3期ぶりに低下した。4～6月期は同15.9%となり、上昇した。7～9月期は同▲0.8%、10～12月期は同▲8.7%となり、2期連続で低下した。

出荷指数は、石けん・合成洗剤界面活性剤が大幅に低下したため、前年比▲1.0%の118.2となり、3年ぶりに低下した。

在庫指数は、前年比▲12.2%の74.7となり、2年連続で低下した。

第12図 化学工業の推移(H17=100)



第18表 化学工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	125.5	126.0	136.6	114.1	118.8	134.2	115.4	133.7	132.6	121.1
前期比	-	-	2.6	▲16.5	4.1	13.0	▲14.0	15.9	▲0.8	▲8.7
前年(同期)比	16.5	0.4	46.5	13.0	11.2	5.2	▲17.4	17.2	10.7	▲3.7
出荷指数	119.4	118.2	129.6	111.2	112.0	125.9	111.1	120.1	124.0	114.7
前期比	-	-	3.7	▲14.2	0.7	12.4	▲11.8	8.1	3.2	▲7.5
前年(同期)比	16.5	▲1.0	45.6	13.1	8.7	7.8	▲15.5	6.1	12.1	▲4.4
在庫指数	85.1	74.7	99.5	82.5	76.0	81.5	76.5	72.6	75.4	73.5
前期比	-	-	5.9	▲17.1	▲7.9	7.2	▲6.1	▲5.1	3.9	▲2.5
前年(同期)比	▲20.4	▲12.2	▲12.3	▲26.8	▲30.2	▲12.4	▲22.3	▲12.0	▲1.6	▲9.2

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

(10)プラスチック製品工業

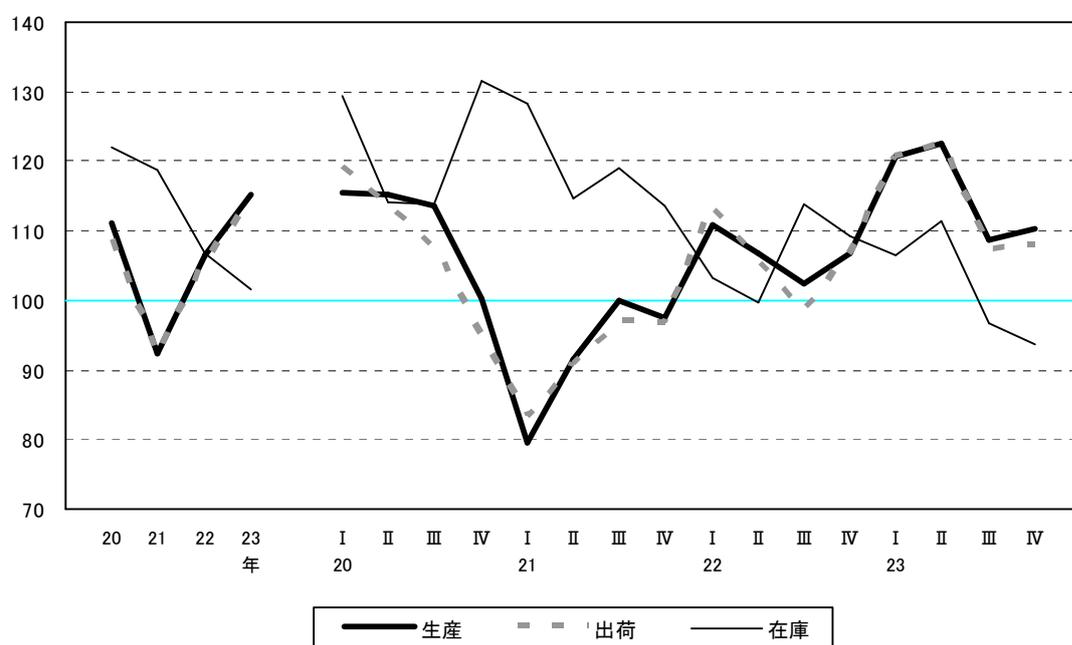
生産指数は、その他のプラスチック製品が低下したものの、他の品目全てが上昇したため、前年比8.2%の115.2となり、2年連続で上昇した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比12.9%、4～6月期は同1.7%となり、3期連続で上昇した。7～9月期は同▲11.4%となり、4期ぶりに低下した。10～12月期は同1.6%となり、上昇した。

出荷指数は、業種を構成する全ての品目が上昇したため、前年比7.8%の114.1となり、2年連続で上昇した。

在庫指数は、プラスチックフィルムなどが低下したため、前年比▲4.9%の101.6となり、3年連続で低下した。

第13図 プラスチック製品工業の推移(H17=100)



第19表 プラスチック製品工業の指数及び増減率

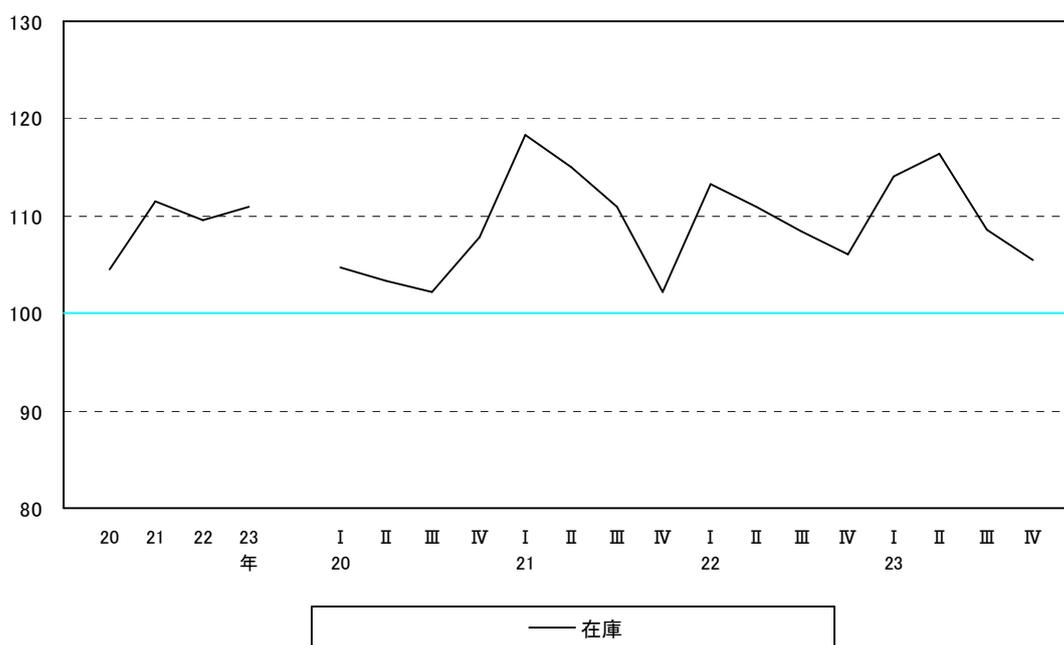
項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	106.5	115.2	110.9	106.7	102.4	106.8	120.6	122.6	108.6	110.3
前期比	-	-	13.7	▲3.8	▲4.0	4.3	12.9	1.7	▲11.4	1.6
前年(同期)比	15.4	8.2	38.1	16.2	4.2	8.9	11.0	16.7	4.1	1.6
出荷指数	105.8	114.1	113.6	105.7	98.6	106.7	120.7	122.7	107.2	107.9
前期比	-	-	17.4	▲7.0	▲6.7	8.2	13.1	1.7	▲12.6	0.7
前年(同期)比	14.9	7.8	36.4	16.1	2.0	9.8	8.5	17.2	7.7	▲1.0
在庫指数	106.8	101.6	103.2	99.7	113.8	109.2	106.4	111.3	96.7	93.8
前期比	-	-	▲9.1	▲3.4	14.1	▲4.0	▲2.6	4.6	▲13.1	▲3.0
前年(同期)比	▲10.1	▲4.9	▲18.0	▲15.6	▲3.3	▲3.9	2.6	8.7	▲13.8	▲13.1

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

(11)パルプ・紙・紙加工品工業

在庫指数は、前年比1.2%の110.9となり、上昇した。

第14図 パルプ・紙・紙加工品工業の推移(H17=100)



第20表 パルプ・紙・紙加工品工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1~3月	II 4~6月	III 7~9月	IV 10~12月	I 1~3月	II 4~6月	III 7~9月	IV 10~12月
生産指数	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
前期比	-	-	x	x	x	x	x	x	x	x
前年(同期)比	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
出荷指数	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
前期比	-	-	x	x	x	x	x	x	x	x
前年(同期)比	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
在庫指数	109.6	110.9	113.3	110.9	108.4	106.0	114.0	116.3	108.6	105.4
前期比	-	-	11.0	▲2.1	▲2.3	▲2.2	7.5	2.0	▲6.6	▲2.9
前年(同期)比	▲1.7	1.2	▲2.8	▲3.2	▲3.3	2.6	0.5	6.6	0.3	▲2.4

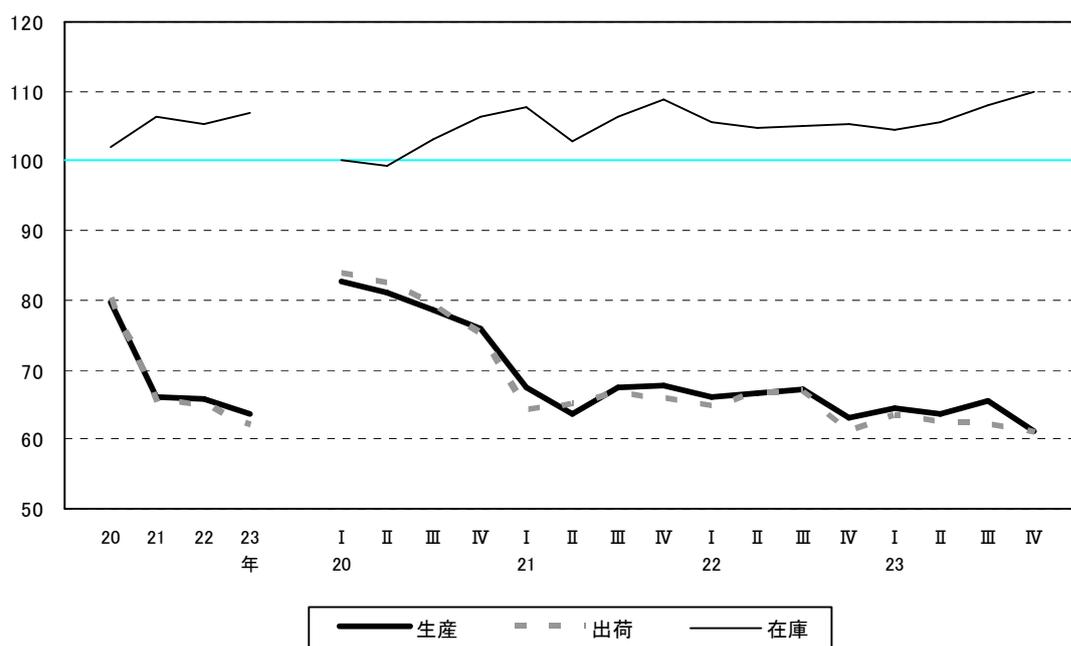
※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

※ 生産、出荷指数については統計上の秘密の保護のため秘匿とする

(12) 繊維工業

生産指数は、衣類が低下したため、前年比▲3.3%の63.6となり、13年連続で低下した。四半期別に見ると、1～3月期は前期比1.7%となり、上昇した。4～6月期は同▲1.1%となり、低下した。7～9月期は同3.1%となり、上昇した。10～12月期は同▲6.7%となり、低下した。出荷指数は、衣類などが低下したため、前年比▲4.5%の62.0となり、13年連続で低下した。在庫指数は、前年比1.6%の106.9となり、上昇した。

第15図 繊維工業の推移(H17=100)



第21表 繊維工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	65.8	63.6	66.2	66.6	67.2	63.2	64.3	63.6	65.6	61.2
前期比	-	-	▲2.4	0.6	0.9	▲6.0	1.7	▲1.1	3.1	▲6.7
前年(同期)比	▲0.6	▲3.3	▲2.5	4.7	1.3	▲5.8	▲3.5	▲4.8	▲1.0	▲3.9
出荷指数	64.9	62.0	64.8	66.7	66.9	61.3	63.3	62.6	61.9	60.9
前期比	-	-	▲1.7	2.9	0.3	▲8.4	3.3	▲1.1	▲1.1	▲1.6
前年(同期)比	▲0.6	▲4.5	0.0	1.9	2.4	▲6.2	▲3.1	▲5.8	▲6.0	▲2.8
在庫指数	105.2	106.9	105.5	104.8	105.1	105.4	104.5	105.6	108.1	109.8
前期比	-	-	▲2.9	▲0.7	0.3	0.3	▲0.9	1.1	2.4	1.6
前年(同期)比	▲1.0	1.6	▲2.1	1.1	▲1.1	▲1.9	▲1.2	0.2	3.1	4.9

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

(13) ゴム製品工業

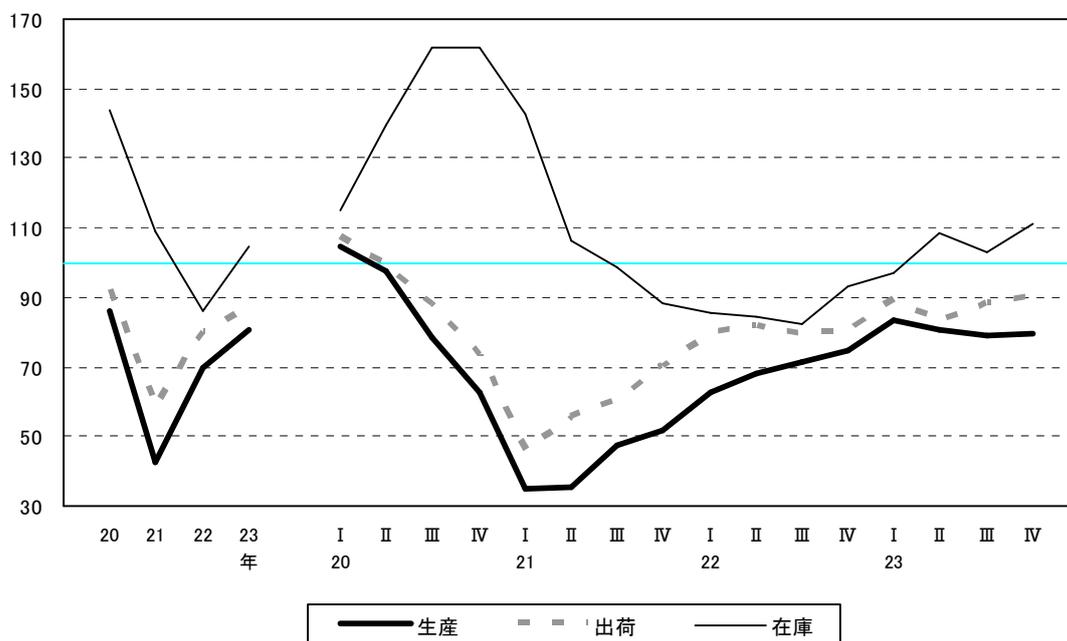
生産指数は、業種を構成する全ての品目が上昇したため、前年比15.8%の80.6となり、2年連続で上昇した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比11.1%となり、8期連続で上昇した。4～6月期は同▲3.1%となり、9期ぶりに低下した。7～9月期は同▲1.9%となり、2期連続で低下した。10～12月期は同0.9%となり、3期ぶりに上昇した。

出荷指数は、業種を構成する全品目が上昇したため、前年比8.8%の87.4となり、2年連続で上昇した。

在庫指数は、業種を構成する全品目が上昇したため、前年比21.4%の104.8となり、3年ぶりに上昇した。

第16図 ゴム製品工業の推移(H17=100)



第22表 ゴム製品工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	69.6	80.6	62.6	68.4	71.4	74.9	83.2	80.6	79.1	79.8
前期比	-	-	21.1	9.3	4.4	4.9	11.1	▲3.1	▲1.9	0.9
前年(同期)比	63.8	15.8	79.8	92.3	51.0	47.0	34.0	16.6	11.5	5.8
出荷指数	80.3	87.4	79.7	81.7	79.5	80.5	89.5	82.9	88.1	89.7
前期比	-	-	13.7	2.5	▲2.7	1.3	11.2	▲7.4	6.3	1.8
前年(同期)比	38.2	8.8	72.7	47.8	32.8	15.7	13.6	0.6	9.9	11.5
在庫指数	86.3	104.8	85.6	84.7	82.1	93.0	96.8	108.2	103.1	111.1
前期比	-	-	▲2.9	▲1.1	▲3.1	13.3	4.1	11.8	▲4.7	7.8
前年(同期)比	▲21.0	21.4	▲39.2	▲21.1	▲16.8	5.9	13.5	28.3	23.9	20.3

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

(14)木材・木製品工業

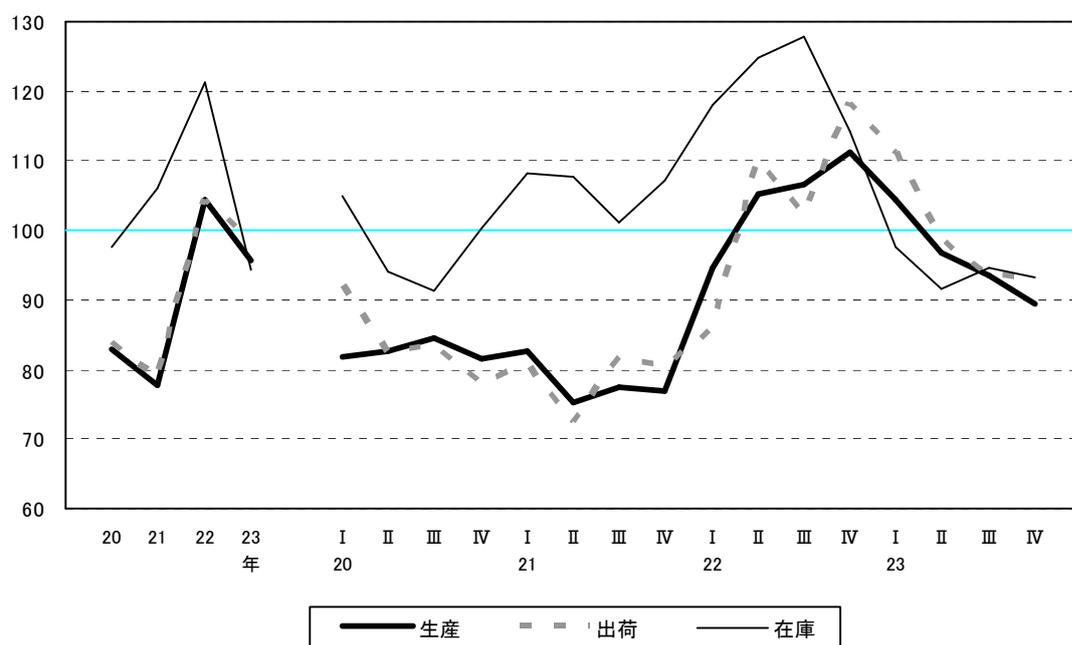
生産指数は、合板が上昇したものの、一般製材が低下したため、前年比▲8.3%の95.7となり、低下した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比▲6.1%となり、5期ぶりに低下した。4～6月期は同▲7.2%、7～9月期は同▲3.5%、10～12月期は同▲4.3%となり、4期連続で低下した。

出荷指数は、合板が上昇したものの、一般製材が低下したため、前年比▲5.2%の98.9となり、低下した。

在庫指数は、業種を構成する全ての品目が低下したため、前年比▲22.3%となり、3年ぶりに低下した。

第17図 木材・木製品工業の推移(H17=100)



第23表 木材・木製品工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	104.4	95.7	94.7	105.1	106.7	111.1	104.3	96.8	93.4	89.4
前期比	-	-	23.1	11.0	1.5	4.1	▲6.1	▲7.2	▲3.5	▲4.3
前年(同期)比	34.2	▲8.3	16.5	41.9	38.7	40.9	10.6	▲8.4	▲13.1	▲19.6
出荷指数	104.3	98.9	85.8	110.0	102.3	118.4	111.2	98.8	93.4	93.1
前期比	-	-	6.8	28.2	▲7.0	15.7	▲6.1	▲11.2	▲5.5	▲0.3
前年(同期)比	32.7	▲5.2	4.9	54.4	27.3	46.8	27.8	▲9.3	▲9.3	▲21.0
在庫指数	121.2	94.2	118.0	124.9	127.9	114.1	97.5	91.5	94.5	93.3
前期比	-	-	10.2	5.8	2.4	▲10.8	▲14.5	▲6.2	3.3	▲1.3
前年(同期)比	14.3	▲22.3	10.7	17.1	26.7	3.8	▲18.0	▲26.9	▲25.4	▲18.0

※年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

(15) 食料品・たばこ工業

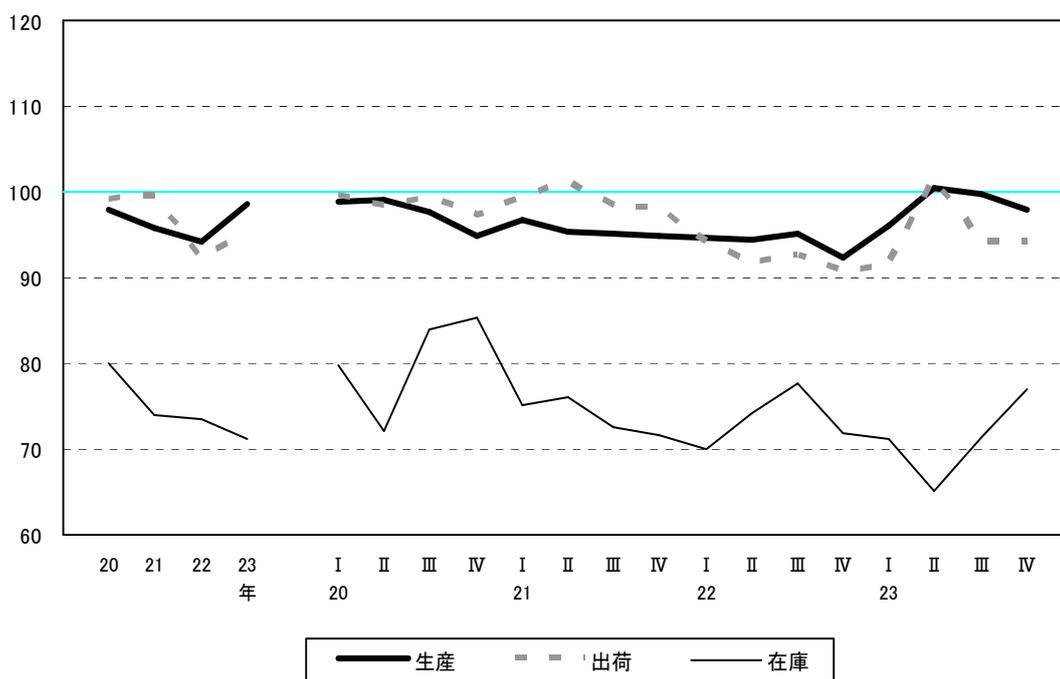
生産指数は、飲料などが上昇したため、前年比4.8%の98.6となり、5年ぶりに上昇した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比4.1%、4～6月期は同4.6%となり、2期連続で上昇した。7～9月期は同▲0.8%、10～12月期は同▲1.9%となり、2期連続で低下した。

出荷指数は、飲料などが上昇したため、前年比3.1%の95.2となり、上昇した。

在庫指数は、その他食料品などが低下したため、前年比▲3.0%の71.2となり、8年連続で低下した。

第18図 食料品・たばこ工業の推移(H17=100)



第24表 食料品・たばこ工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	94.1	98.6	94.6	94.5	95.1	92.3	96.1	100.5	99.7	97.8
前期比	-	-	▲0.3	▲0.1	0.6	▲2.9	4.1	4.6	▲0.8	▲1.9
前年(同期)比	▲1.7	4.8	▲2.3	▲1.0	0.3	▲3.9	1.7	6.4	6.2	4.7
出荷指数	92.3	95.2	94.1	91.6	92.6	90.7	91.4	101.6	94.2	94.2
前期比	-	-	▲4.2	▲2.7	1.1	▲2.1	0.8	11.2	▲7.3	0.0
前年(同期)比	▲7.3	3.1	▲6.0	▲10.5	▲4.6	▲8.3	▲3.9	12.3	1.7	3.1
在庫指数	73.4	71.2	70.0	74.1	77.6	71.9	71.2	65.2	71.5	77.0
前期比	-	-	▲2.4	5.9	4.7	▲7.3	▲1.0	▲8.4	9.7	7.7
前年(同期)比	▲0.7	▲3.0	▲8.0	▲4.2	9.2	1.0	▲0.6	▲12.6	▲6.3	7.5

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

(16) その他の工業

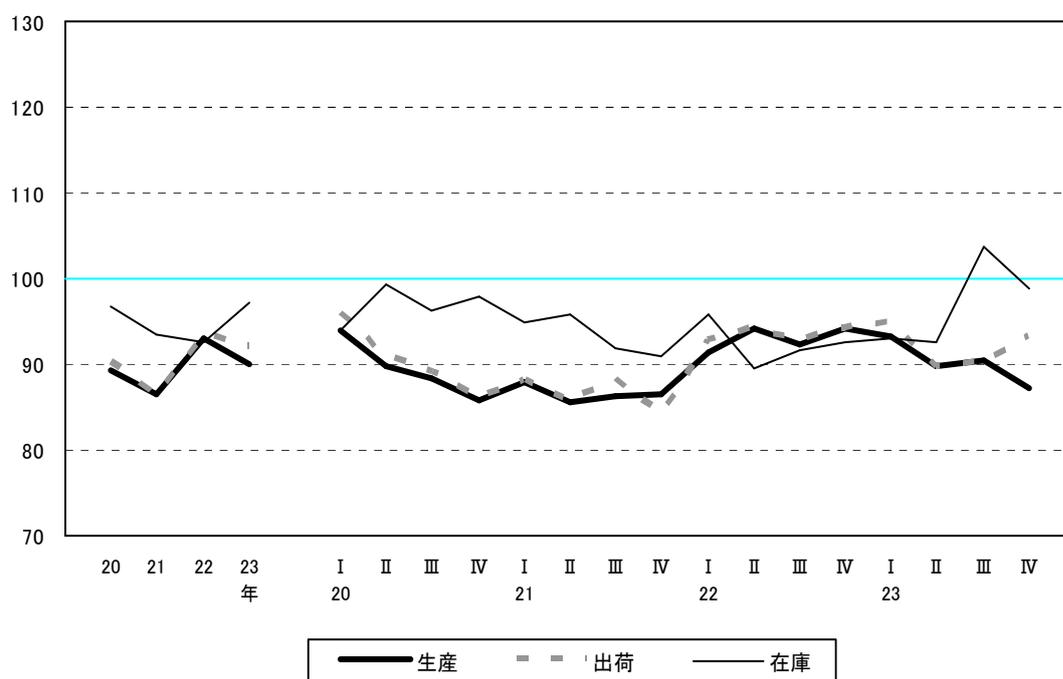
生産指数は、家具工業が上昇したものの、他の品目全てが低下したため、前年比▲3.3%の90.0となり、低下した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比▲1.2%、4～6月期は前期比▲3.6%となり、2期連続で低下した。7～9月期は前期比0.7%となり、3期ぶりに上昇した。10～12月期は前期比▲3.7%となり、低下した。

出荷指数は、家具工業が上昇したものの、他の品目全てが低下したため、前年比▲1.7%の92.0となり、低下した。

在庫指数は、家具工業が上昇したため、前年比5.0%の97.1となり、4年ぶりに上昇した。

第19図 その他の工業の推移(H17=100)



第25表 その他の工業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	93.1	90.0	91.3	94.1	92.4	94.3	93.2	89.8	90.4	87.1
前期比	-	-	5.7	3.1	▲1.8	2.1	▲1.2	▲3.6	0.7	▲3.7
前年(同期)比	7.5	▲3.3	7.3	9.9	4.9	7.6	1.7	▲4.6	▲2.1	▲8.0
出荷指数	93.6	92.0	92.7	94.3	92.9	94.1	94.8	89.8	90.2	93.3
前期比	-	-	10.0	1.7	▲1.5	1.3	0.7	▲5.3	0.4	3.4
前年(同期)比	8.2	▲1.7	9.9	10.2	3.9	8.8	1.6	▲4.6	▲2.2	▲1.9
在庫指数	92.5	97.1	95.9	89.5	91.7	92.6	93.1	92.5	103.8	98.8
前期比	-	-	5.4	▲6.7	2.5	1.0	0.5	▲0.6	12.2	▲4.8
前年(同期)比	▲1.0	5.0	1.0	▲6.3	▲0.8	1.9	▲2.3	2.0	13.8	6.8

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

(17) 鉱業(非金属鉱業)

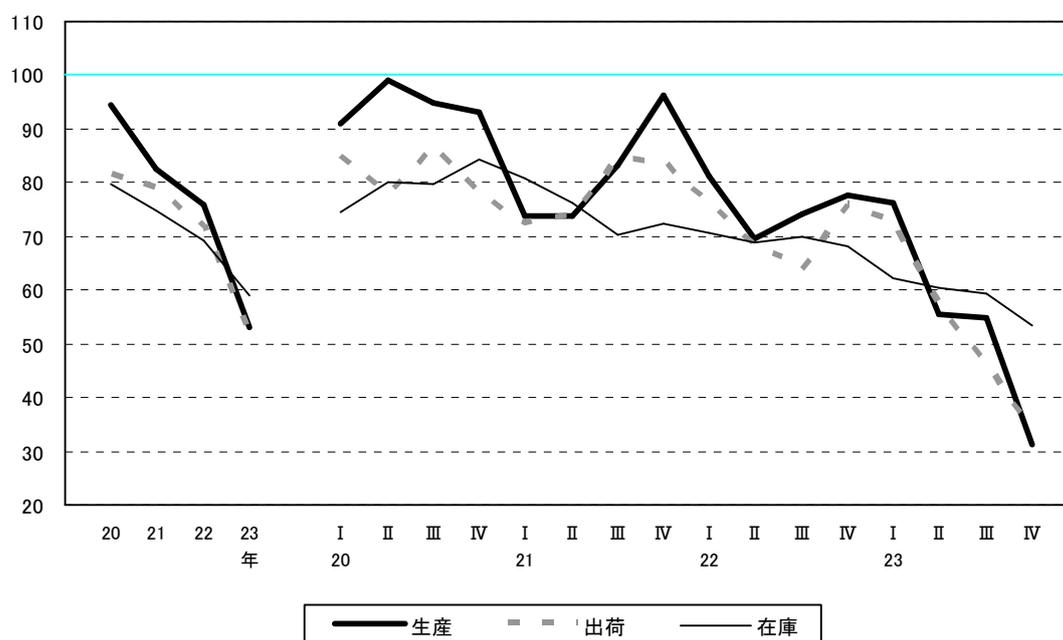
生産指数は、前年比▲30.3%の53.0となり、3年連続で低下した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比▲1.9%となり、3期ぶりに低下した。4～6月期は同▲27.4%、7～9月期は同▲1.3%、10～12月期は同▲43.0%となり、4期連続で低下した。

出荷指数は、前年比▲28.2%の51.6となり、13年連続で低下した。

在庫指数は、前年比▲15.0%の58.9となり、9年連続で低下した。

第20図 鉱業の推移(H17=100)



第26表 鉱業の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	76.0	53.0	81.3	69.5	74.3	77.8	76.3	55.4	54.7	31.2
前期比	-	-	▲15.6	▲14.5	6.9	4.7	▲1.9	▲27.4	▲1.3	▲43.0
前年(同期)比	▲8.0	▲30.3	8.1	▲9.2	▲9.7	▲17.5	▲9.1	▲19.6	▲27.3	▲59.6
出荷指数	71.9	51.6	76.1	68.6	64.1	76.0	72.5	57.3	46.2	34.1
前期比	-	-	▲9.3	▲9.9	▲6.6	18.6	▲4.6	▲21.0	▲19.4	▲26.2
前年(同期)比	▲9.1	▲28.2	3.1	▲12.7	▲25.5	▲3.9	▲2.7	▲18.5	▲29.3	▲54.6
在庫指数	69.3	58.9	70.5	68.7	69.8	68.2	62.3	60.5	59.4	53.5
前期比	-	-	▲2.5	▲2.6	1.6	▲2.3	▲8.7	▲2.9	▲1.8	▲9.9
前年(同期)比	▲7.4	▲15.0	▲12.2	▲10.1	▲1.4	▲4.9	▲12.3	▲12.3	▲15.0	▲20.6

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

3 特殊分類別の動向

(1)最終需要財

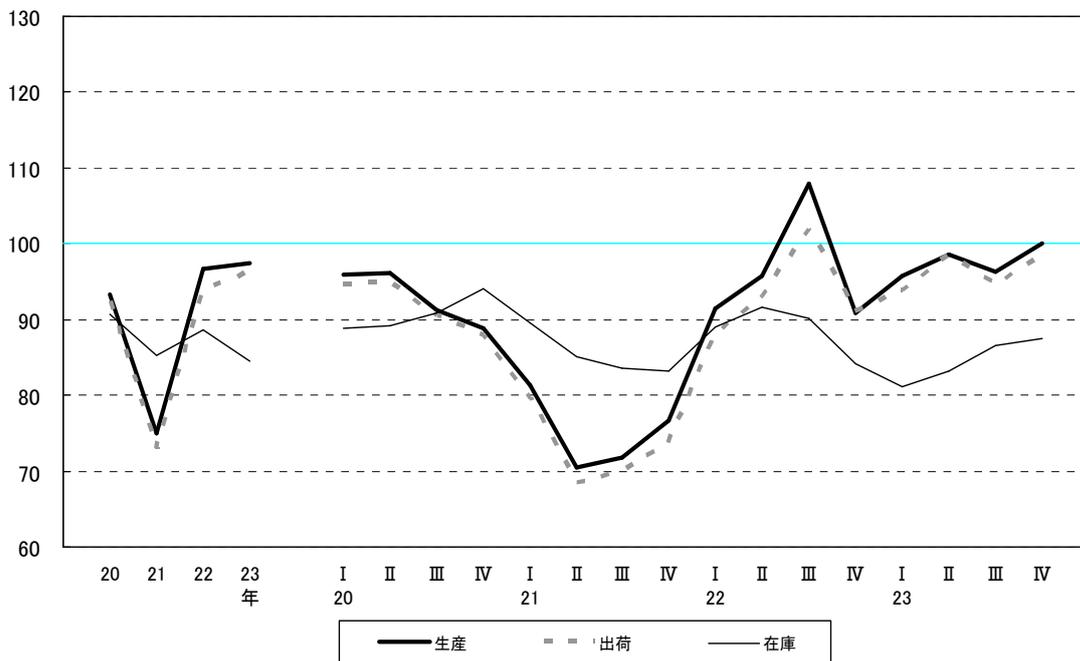
生産指数は、前年比0.8%の97.5となり、2年連続で上昇した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比5.5%、4～6月期は同2.9%となり、2期連続で上昇した。7～9月期は▲2.2%となり3期ぶりに低下した。10～12月期は同3.8%となり、上昇した。

出荷指数は、前年比2.7%の96.3となり、2年連続で上昇した。

在庫指数は、消費財が上昇したものの、投資財が低下したため、前年比▲4.6%の84.6となり、低下した。

第21図 最終需要財の推移(H17=100)



第27表 最終需要財の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	96.7	97.5	91.5	95.7	107.9	90.8	95.8	98.6	96.4	100.1
前期比	-	-	19.3	4.6	12.7	▲15.8	5.5	2.9	▲2.2	3.8
前年(同期)比	28.9	0.8	14.8	35.3	50.0	17.1	4.2	2.7	▲10.5	9.3
出荷指数	93.8	96.3	88.1	93.1	102.0	91.0	93.9	98.6	94.7	98.6
前期比	-	-	19.7	5.7	9.6	▲10.8	3.2	5.0	▲4.0	4.1
前年(同期)比	28.7	2.7	13.2	35.1	45.4	22.6	5.3	6.4	▲7.3	7.7
在庫指数	88.7	84.6	89.0	91.6	90.1	84.1	81.2	83.2	86.6	87.6
前期比	-	-	7.0	2.9	▲1.6	▲6.7	▲3.4	2.5	4.1	1.2
前年(同期)比	4.0	▲4.6	▲0.5	8.1	8.2	0.1	▲9.3	▲8.9	▲3.0	3.5

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による

(2)生産財

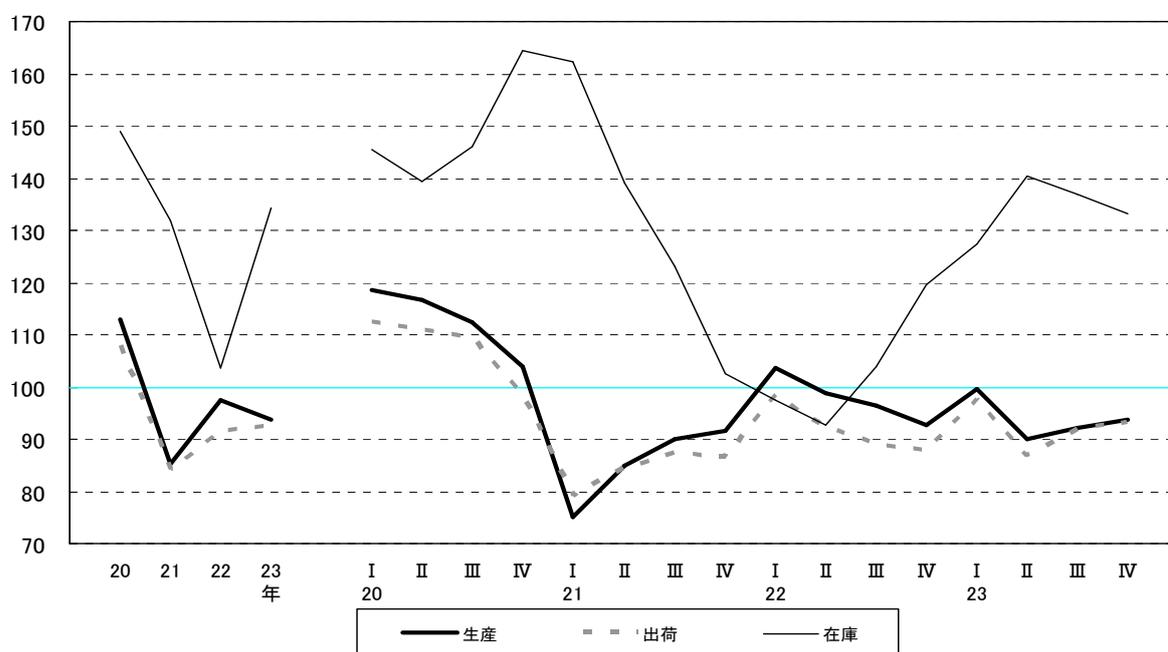
生産指数は、前年比▲3.8%の93.8となり、低下した。

四半期別に見ると、1～3月期は前期比7.3%となり、4期ぶりに上昇した。4～6月期は同▲9.6%となり、低下した。7～9月は同2.4%、10～12月期は同1.8%となり、2期連続で上昇した。

出荷指数は、その他用生産財が低下したものの、鉱工業用生産財が上昇したため、前年比0.7%の92.3となり、2年連続で上昇した。

在庫指数は、その他用生産財が低下したものの、鉱工業要請散財が上昇したため、前年比29.7%の134.2となり、3年ぶりに上昇した。

第22図 生産財の推移(H17=100)



第28表 生産財の指数及び増減率

項目	平成22年	平成23年	平成22年				平成23年			
			I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月	I 1～3月	II 4～6月	III 7～9月	IV 10～12月
生産指数	97.5	93.8	103.5	98.7	96.3	92.7	99.5	89.9	92.1	93.8
前期比	-	-	13.1	▲4.6	▲2.4	▲3.7	7.3	▲9.6	2.4	1.8
前年(同期)比	14.6	▲3.8	38.1	16.4	9.1	0.5	▲1.3	▲9.6	▲4.3	▲0.3
出荷指数	91.7	92.3	98.6	92.1	89.0	87.9	97.7	86.9	91.8	93.2
前期比	-	-	14.0	▲6.6	▲3.4	▲1.2	11.1	▲11.1	5.6	1.5
前年(同期)比	8.9	0.7	24.6	9.6	3.1	0.3	0.6	▲6.1	3.5	4.4
在庫指数	103.5	134.2	97.4	92.8	103.8	119.7	127.4	140.4	136.9	133.2
前期比	-	-	▲5.0	▲4.7	11.9	15.3	6.4	10.2	▲2.5	▲2.7
前年(同期)比	▲21.5	29.7	▲38.2	▲34.3	▲16.2	15.6	31.0	50.6	31.7	11.4

※ 年指数及び前年(同期)比は原指数、四半期指数及び前期比は季節調整済指数による